

大本少年夏期学級 研修資料

夏期学級講話データ集

[カテゴリ 1] 夏期学級について

[カテゴリ 2] 天地の恩

[カテゴリ 3] 感謝の心と善言美詞

[カテゴリ 4] 神さまのこと

[カテゴリ 5] 大本のお話

大本青年部



カテゴリ 1

夏期学級について

2016/04/16

大本青年部 作成

| | |
|---------------------------|----|
| 夏期学級について | 1 |
| ◆夏期学級のはじまり | 1 |
| ◆夏期学級のプログラムについて | 2 |
| ◆夏期学級の目的 | 2 |
| ◆夏期学級の目標 | 2 |
| お礼拝について | 4 |
| ◆夏期学級の特徴—神さまを中心に | 4 |
| ◆お祈りの大切さ | 4 |
| ◆お祈りとお供えもの | 5 |
| 挨拶について | 6 |
| はきものの始末について | 7 |
| ◆はきものを大切にする | 7 |
| ◆省みることの大切さ | 8 |
| 三首のお歌について | 9 |
| ◆火（日）のご恩、土のお恵み、水の恩 | 9 |
| 団体生活について | 10 |
| ◆みんなで楽しむためのルール | 10 |
| 明日からの生活（最終日のお話） | 11 |
| ◆ぼくたちわたしたちにできること | 13 |
| ◆使命（神さまがお喜びになられること） | 13 |
| ◆思いやりの心 | 14 |
| ◆感謝のこころ | 15 |

夏期学級について

【質問】 夏期学級に来たことがある人？ はじめて来た子は？
なんで夏期学級にきたのかな？

◆夏期学級のはじまり

—今から 62 年前（昭和 26 年 3 月・8 月）「三丹少年研修会」
昭和 28 年夏より「大本少年夏期学級」と名前が変更し今日に至る。

“大本少年夏期学級は、のちの大本のため、そして日本のため”

大本少年夏期学級が毎年開催されるにいたった、出口すみこ二代教主さまのお言葉。
昭和 26（1951）年 3 月の春休み、綾部梅松苑で綾部を中心とした大本信徒の子供たちを集めて「三丹少年研修会」が開催された。

地元の親御さんは「大本さんに預けたら安心だ」といわれて、未信徒の子供たちも大勢参加。

第 2 回「三丹少年研修会」を同年 8 月に開催。73 人の子どもが参加。

研修会のお世話をした青年は仕事との両立が難しく、

「こんなしんどいのは適わない。最後にしよう……」と思っていた。

最終日、二代教主さまは参加者と一緒に記念撮影にお入りになり、一緒にご会食。

二代教主さまは子どもと青年にお直筆の短冊をお下げになる。子供たちと青年は大喜び。思わぬおかげをいただいた。

二代教主さまは青年たちに向かって

「信者さんたちの子どもを、小さなうちから神さまを信じる立派な日本人にしなければなりませんし、立派な人を世に送り出さねば大本も発展しません」

（※お示しとしては残っていません）

とおっしゃった。

二代教主さまのお言葉は受け継がれ、今日の夏期学級の主旨へとつながっている。
後継者育成の場で夏期学級はたいへん重要な役割があるといえる。

この研修会から回をかさね昭和 28 年夏より「大本少年夏期学級」と名前が変更し、今日まで全国で継続開催されている。

※2012 年も全国で開催（全国 38 機関 33 会場）

※このエピソードは故 古田豊秋先生からの口伝です

◆夏期学級のプログラムについて

みんなに・・・

①楽しむ（楽しんでほしい）②経験（経験してほしい）③学ぶ（学んでほしい）

という思いで、青年部のお兄さん、お姉さんがだいぶ前から準備してきました。

休みを利用して準備

みんなにとって大事な三日間（or 二日間）にするために！！

⇒夏期学級の目標を頑張ろう！

◆夏期学級の目的

神性の開発

——神性を芽生えさせる（神の子の育成）「人は神の子・神の宮」

【質問】みんな神さまの子（いい子）と思われたいですか？

悪い子と思われたいですか？

私たちは、神の子です。

この夏期学級を通して神さまに親しみ、水のありがたさ、食べ物大切さを知り感謝の心を育みましょう。（お礼拝、感謝の心）

そして、この3日間の団体生活の中で、規律正しく責任を持って行動し、

美しい心と健康な体を養いましょう。（あいさつ、はきものの始末、団体生活）

わたしたちは神の子

神さまは宇宙をつくり、地球をつくり、自然を作り、人間を生みだしました。

私たちの心と体は神さまからいただいたものです。みんな神さまの子なのです。

◆夏期学級の目標

夏期学級を楽しむために夏期学級の目標を頑張ろう。

【質問】夏期学級に参加した事がある人。無い人。何回目ですか？

【質問】何を楽しみにしていますか？（手を上げてもらう）

私も子供の時にみんなと同じように、夏期学級に参加して、とても楽しかったです。友達もいっぱいできました。みんなにも夏期学級を楽しんでもらいたいです。

そのために守ってもらいたいことがあります。

好きな事をして、楽しむのはいいけど、自分だけが楽しむのではなくみんなを楽しむことを考えましょう。どうしたらみんなで楽しむことができるか。参加したみんなが、楽しい夏期学級になるようにみんな頑張らしましょう。【協同・連帯感を培う】

夏期学級の4つの目標（夏期学級の^{もと}基本）

- 1、お礼拝
- 2、あいさつ
- 3、はきものの始末
- 4、三首のお歌

この4つを夏期学級で行います。

1、お礼拝（神さまに親しむ）…4分

朝と夕に神さまにお礼拝をします。また、講座の前と後もお礼拝を行います。

2、あいさつ（規律正しい行動）…6分

あいさつは人と人々が仲良くするために、大切なことです。
あいさつを明るく元気よく行います。

3、はきものの始末（省みるころ）…7分

「履き物を始末する」ことは自分のした事を振り返るということです。
成長するために必要な省みる心を強くすることができます。

4、三首のお歌（感謝のころ）…9分

食事の前には、三首のお歌を唱えます。感謝をしていただきます。
感謝の意味はわかりますか？「ありがとうございます」と思う気持ちです。

「あいさつ」「はきものの始末」「感謝の心」
この3項目は「言心行一致」の生活の基で、それは「誠」につながります。
「誠」は言+成と書きます。

お礼拝について

◆夏期学級の特徴—神さまを中心に

【質問】学校やキャンプと違う点は？【学校と夏期学級のここが違うなあ？】

お礼拝、神さまのお話し、朗詠、三首のお歌・・・

☆夏期学級は朝と夕にお礼拝をする

☆お礼拝→神さまを中心として夏期学級のプログラムは運営されている

神さまを中心にして、全員が生活をする。

なんでお礼拝（お祈り）するのか？

【実践】お礼拝の仕方（姿勢を正しくすること）

◆お祈りの大切さ

お祈りとは、神さまに直接、気持ちをお伝えすることです。

どんな気持ちを伝えるか？それは、感謝と祈願の気持ちです。

感謝とは—「ありがとうございます」の気持ち

神さまのお恵みをいただいていること、毎日の生活を楽しく無事に過ごさせていた
だいていることに心から「神さま、ありがとうございます」という気持ちをもつこと

祈願とは—「お願いすること」※自分勝手なお願いではありません

私たちの心が神さまのような清らかな大きな心になって世のため人のために尽くす
ことができる立派な人となるようお祈りします。

また、世界中の人々が安心して生活できる平和な世の中になるようお祈りします。

神さまにお祈りするときは、「ありがとうございます」の気持ちや心だけではなく、
神さまにお願いもします。

それは、自分も含めたすべての人間、また自然などの本当の幸せをお願いすること
です。「自分がよければそれでいい」という自分勝手なお願いは通じません。

言葉では、裏表があっても、神さまはすべてお見通しです。

強く願う心も、神さまに直接強く届きます。

また、誰かのことを願う気持ちは、必ず相手に届きます。

祈れば神さまはかなえてくださいます。

夏期学級での祈り

⇒ケガもなく、風邪もひかず、みんなで楽しく夏期学級を過ごせますように、
(リーダーは)一人ひとりが夏期学級で大切なことを学んでより成長できますように。
たくさんの友達ができますように。
リーダーや友達に思いやりを持って過ごせますように。
みんなで楽しく過ごせますように。ここで出会った友達と仲良くなれますように。
楽しい夏期学級になりますように。

「かむながらたまちはへませ惟神靈幸倍坐世」の意味

「惟神靈幸倍坐世」は、「神さまのみ心のまにまに（魂がよくなるよう）すべてをおまかせいたします」という意味で神さまに対する祈りの言葉であります。自分勝手なお願いは通じません。

「祈れば光が射してくる」というお言葉があるように困ったときほど、神さまにお祈りをさせていただくと、きっと神さまのあたたかい光（信真）と熱（愛善）をいただくことができます。「天命を知って人事を尽くす」—自分で努力することも忘れてはなりません。自分で努力したうえで、神さまにいい方向に進ませてもらえるようお祈りさせていただきます。

◆お祈りとお供えもの

月次祭などの大きなお祭では、神饌物、玉串（松・垂手）などをお供えします。
神饌物は米、お酒、お餅、魚や昆布。シイタケなどのキノコ類や大根、ナス、人参などの野菜、リンゴやバナナなどの果物などの食べ物をお供えします。

生きるために大切な「衣・食・住」をお供えする

◎米、野菜、果物⇒（霊界では…）食べ物「食」

◎松⇒木⇒（霊界では…）家屋「家」 ◎垂手⇒紙⇒（霊界では…）衣服「衣」

◎お明り⇒（霊界では…）火

神饌物は、神さまに捧げるという意味と、これだけたくさんものを神さまのみ恵みによって収穫させていただきました。という感謝の気持ちを込めています。

毎日のお供えには、一日一回（朝）お給仕をします。

これは、お水とお米をお供えします。お水とお米は生きていくうえでとても大切なものです。その大切なものを神さまのお恵みによって、いただいていることに感謝をしてお供えをさせていただきます。

挨拶について

【質問】挨拶にはどんな挨拶がありますか？

おはよう こんにちは こんにちは おやすみなさい

他にも・・・

「いただきます」「ごちそうさま」

「ただいま」「お帰りなさい」

あとは・・・

「はいっ！」とはっきりと返事することも大事です。

友達と会ったらまずはじめに挨拶をしますよね？

挨拶はコミュニケーションの基本です。

いくら話が上手でも勉強ができて、挨拶ができないとダメです。

今は大人でも挨拶ができない人がたくさんいます。

新社会人が入社するときまず挨拶を教えるところからはじめる会社もあるそうです。

そのくらい挨拶は重要。大人になってからもずっと大切なのです。

お店に行くと「いらっしゃいませ」と挨拶してくれますが、気持ちよく挨拶されるとなんだかそのお店がいいお店におもえてくるから不思議です。

気持ちよく挨拶ができると周りの人も気持ち良くなり、それがきっかけでいい空気が生まれていきます。挨拶ができればいいことばかりですが、逆に挨拶ができないと損してしまうことのほうが多いです。

【質問】みなさんはどんな挨拶がいいと思いますか？

気持ちのいい挨拶ができるといいですね。

みなさんが元気に挨拶・笑顔で気持ち良くあいさつをしたら、家族や友達もその挨拶によって元気をもらいます。挨拶で元気を与えることもできるし、周りの雰囲気もよくすることができるのです。

逆に、挨拶がなかったり、挨拶しても無視されたら少し嫌な気持ちになりますよね。

挨拶のポイントは「大きい声で元気に、笑顔で明るく」です。

みなさんも気持ちのよい挨拶ができるようになりましょうね！

そして、いい返事もできるようになりましょう。

はじめは恥ずかしくてできなかったとしても、意識していれば必ずできるようになります。

【実践】向かい合って、あいさつの練習、返事の練習

はきものの始末について

「はきものをそろえる」…後ろを振り返って、手でそろえる

◆はきものを大切にす

裸足で外に出たら、とてもじゃないけど、痛くて歩けません。

痛いだけならいい。石やガラスで足を切るかもしれません。

切るだけじゃないかも…。切ったところからばい菌が入って、足が膨れる、腐って
いくような病気になるかもしれません。ばい菌も入らない、足も切らない、痛い思い
などを誰もしなくていいように守ってくれているのが、「靴」「ぞうり」です。

だから、いつもありがとうという気持ちをこめて下駄箱にしまっておいてください。

(まわりにあるものすべてがそうです。着る物・食べ物・住まい、すべてのものに
感謝の気持ちをこめて接する。これを「慈愛のこころ」といいます。)

メジャーリーガー・イチロー選手の例→道具(バットやグローブ)の手入れをしつ
かりし、大切に扱う。一流のプロ選手は道具を大切に扱う。

【実践】はきものの揃え方を練習してみよう!【良い例と悪い例の見本をおこなう】

「はきものをそろえる」

はきものをそろえると ころもそろ

ころがそろと はきものもそろ

ぬぐときにそろえておくと

はくときに心がみだれない

だれかがみだしておいたら

だまってそろえておいてあげよう

そうすればきっと

世界中の人の心も そろうでしょう

曹洞宗・永平寺(福井県吉田郡)に伝わる道元禅師の「教え」

トイレのスリッパが揃っていると気持ち良くトイレに入る事ができます。逆に揃っ
ていないとあまり気分のよいものではありません。

履物を揃えるときもあれば、揃えられない時もあります…。とくにきちんと揃える
ことは頭では分かってはいても意外と難しいものです。(後ろを振り返って手で揃える)

履物をきちんと揃えることができるようになると、自然とまわりのことも気がつき
しっかりとできるようになってきます。

「はきもの」にとどまらず、身の回りの整理整頓へ

たとえば学校などでゴミが落ちていたら拾って捨てる、洗面の蛇口がしまっていないからしめる、汚れていたら布巾でふく、こまめに電気を消して節電する…等、小さな心遣いができるようになります。

「誰かがするだろう…」という考えではなく自ら率先して何事もする事ができるようになればとても素晴らしい。

◆省みることの大切さ

『^{きやつかしやうこ}脚下照顧』(仏教用語)

意味自分の足元をよくよく見よという意。もと禅家の語で、他に向かつて悟りを追求せず、まず自分の本性をよく見つめよという戒めの語。転じて、他に向かつて理屈を言う前に、まず自分の足元を見て自分のことをよく反省すべきこと。また、足元に気をつけよの意で、身近なことに気をつけるべきことをいう。

「足元の靴がどうなっているか振り返って見て、揃えなさい」という意味です。そして、もっと深い意味もあります。

脚下とは自分の足元、「我が身」、「我が心」を振り返れ(省みる)ということです。他人の悪口はつい口から出てしまいます。簡単に人を批判して、つつい人の悪口や文句をいってしまいます。自分は他人の批判(悪口)ができるほどの人間なのか、自分はどうなんだと振り返らなければならないと戒めているのです。こういった心を持つことはなかなか難しい。でも、とても大事なことです。

“そうすれば世界中の人の心もそろうでしょう”

自分の国さえよければ、自分さえ良ければいいと、みんなが思ってしまったら平和はきません。友達と仲良く過ごすこともできません。

思いやりの心が大事です。トイレなどの共同で使うスリッパも気がついたら揃えてあげましょう。

まずは自分の履物をきちんと揃えること。そして、ほかの人の「はきもの」が揃っていないから揃えてあげる。夏期学級では「はきものの始末」はもちろん荷物の整理もしっかりと行いましょう。

◎「はきもの」は“きちん”と揃えましょう。…後ろを振り返って手で揃える

【実践】くつを脱いで「はきもの」を揃える動作を練習する

三首のお歌について

この世の全てのものは、人間が造ったものではありません。

この世のものは、すべて神さまから与えられたものなのです。神さまから与えられたものを利用して何かを作っているのです。神さまのお恵みをいただいて生活しているのですね。

食物の種は？育てる土は？ 太陽の光は？水は？誰がつくってくれていると思いませんか？なによりも空気は…工場がつくっているわけではない。

空気は自然の力でいただいている。空気がなくては生きていけません。(空気の恩)

私たちのまわりはたくさんの恩（恵み）でいっぱいなのです。そのたくさんの恵みにいっぱい気づくことが大事なのです。

火のご恩、水のお恵み、土の恩

この3つの恩のおかげでお米をつくる（育てる）ことができるのです。

◆火（日）のご恩、土のお恵み、水の恩

（恩＝恵み）◎火も土も水も人間が造ったものではありません。

お米1粒も神さまのお恵みがないとお米は育ちません。いただくことができません。火（日）の神さま、土の神さま、水の神さま、三体の神さまが揃ってはじめてお米ができあがります。このいっさいの自然をつくり今なお絶えずお働きになられている神さまをここに（ご神前に）お祭りし、朝・夕にお祈りをして感謝をしているのです。

食事の前には三首のお歌を唱えます。三首のお歌は二代さまのお歌です。

② 「天の恩土のめぐみに生れたる菜乃葉一枚むだに捨てまじ」

② 「一つぶの米のなかにも三体の神ゐますことを夢な忘れそ」

① 「火のご恩水のおめぐみ土の恩これが天地の神のみすがた」

① 「天の恩」とは神さまからのお恵みのことです。たくさんの「天の恩」そして、「土のめぐみ」から生まれた「菜乃葉一枚」も無駄にしません。とうたっています。

② たった一粒の米の中にも三つの神さまがいます。そのことを絶対に忘れませんという意味です。

③ 三体の神さまとは火、水、土の神さまで、神さまの恩により出来た食べ物には天地の神さまのお姿やお力があらわれているのですね。

三首のお歌は、火、水、土を造られた神さまのご恩に感謝する大切なお歌です。目の前の食べ物のことばかり考えてお歌をあげるのではなく、神さまのご恩を感じながら、食べ物をいただけることに感謝をしてお歌を上げさせていただきます。

団体生活について

◆みんなで楽しむためのルール

・・・お家のルール 学校のルール そして、夏期学級のルール

チーフリーダー、リーダーの言うことをしっかり聞く

班での役割を行う

班員を思いやる、大切にす

夏期学級での約束を守る

時間を守る

集合、整列、点呼をしっかりと行う

相手の気持ちを思いやる

ありがとうの大切さ、思いやりの言葉

食べ物を残さないようにする

一人ではできないことも、2、3人いればできることもあります。2、3人ではできないことも、10人いればできることもあります。

「自分だけが良い」ではなくて、みんなで楽しめることを考えて行動してほしいと思います。

みんなで楽しむこと、協力しあうこと

「消極は地獄であり 積極は極楽である」(出口日出麿尊師さま)

夏期学級の時間を大切に 出会えた仲間を大切に

【一期一会 (いちごいちえ)】

一生に一度だけの機会。生涯に一度限りであること。生涯に一回しかないと考えて、そのことに専念する意。一生に一度のものと心得て、誠意を尽くすべきことをいう。

☆夏期学級で学ぶことは生きていく上においてとても大切なことばかりです。

☆大人になっても大切なことばかりです。

☆夏期学級の中だけではなく、学校や普段の生活にもいかしましょう。

明日からの生活（最終日のお話）

今回の夏期学級で、

新しく学んだこと、初めてしたこと、よかったこと、嬉しかったこと、感謝したこと
最低3つ以上紙に書いてください。

たくさんある人はたくさん書いてください。【紙を配布する】

例) 脱いだ靴を手で揃える、ということ始めて知った。

たくさんの人と遊んで、楽しかった。友達が消しゴムを貸してくれた。

【何人かに発表してもらおう】or【紙を集めて講師が発表する】など

みなさんは、この夏期学級に参加して、今まで知らなかったことを、リーダーや庶務のお兄さん、お姉さんからいろいろ教えてもらったと思います。

それは、リーダーや庶務のみんなが、参加しているみなさんに教えたかったこと、
伝えたかったことなのです。

みなさんがいろんなことをたくさん学んで成長すれば神さまに喜んでいただけます。

さて、みんなは神さまってどんなことを思い浮かべる？

私は、天の恵みやすべてのものは神さまからいただいたもの、神さまだと思っています。

だから、神さまの喜ぶことは、私たちの喜びになります。

神さまの喜ばれることをしてください。

それが何かわかりますか？

朝夕のお祈り

明るく元気なあいさつ

はきものの始末

三首のお歌（感謝するところ）

善言美詞（ありがとう すいません おかげさま もったいない うれしいな）

（きれいだね かわいいね かっこいいね だいすき）

省みるころ、思いやりのころ（反省会）

絵本『花さき山』（齊藤隆介作）※下記はあらすじ

「たった十のおなごわらし」であるあやは、山道で迷いその山の奥で出会った「山ンば」にいちめに咲く美しい花の秘密を教えられます。ふもとの村の人間が、優しいことを一つすると、一つ咲く花。そこには昨日、あやが小さい妹のために泣く泣くお祭りの晴れ着をあきらめ「おらはいらねえから、そよサかってやれ」と言ったときに咲いた美しい花がありました。

「山ンば」はあやにこう語ります。

「この 花さき山 いちめんの花は、みんな こうして さいたんだ。つらいのを しんぼうして、じぶんのことより ひとのことを おもって なみだを いっぱい ためて しんぼうすると、その やさしさと、けなげさが、こうして 花になって、さきだすのだ。」

さらに「山ンば」は続けます。

「やさしいことをすれば花がさく。いのちをかけてすれば山がうまれる。うそではない、ほんとうのことだ……………」

そしてこの花さき山は、「八郎」という山おとこが「八郎瀉」に沈んで高波を防いで村を守ったときに生まれたというのです。

世の中をよくすることにつながっていくこと

→ガマンすること、人にやさしいこと、自分のことより他人のこと。

人のために1歩譲ること。

人の心は鏡。

悪いことを思えば、悪いものが集まってくる。

良いことを思えば、良いものが集まってくる。

死んだ後（天国）のほうが長い、花がいっぱい咲いているところに行けるように頑張ろう。人の見ていないところで良いことをしよう。人のためになることをしよう。きれいな花を一つ咲かせよう。

夏期学級で学んだ事を大切にして神さまの御心にそった生活を心がけよう

◆ぼくたちわたしたちにできること

「何ができるか」を考えてみよう

参加者に何ができるかを考えてもらい、発表してもらおう。

- ・節水、節電 なぜするのか？
- ・水の大切さ— 一日の消費量、飲み水の大切さについて
- ・感謝すること 人、神さま、食べ物を残さない
- ・食べ物や水を大切にすること
- ・三首のお歌
- ・思いやりの心をもつこと（人とのつきあい方）
「世の中をよくするたった一つのもの、それは好意である」
- ・祈りの大切さ（世界の人のために祈ること）

◆使命（神さまがお喜びになられること）

すべてのものの幸せのために

本当の幸せとは何か？

神さまはいつも人間の幸せを願っておられます。

神さまは人間を、母が子を愛するように愛されています。

人間には生まれ持ったお仕事を神さまから与えられている。

そのお仕事を果たすことが、人間にとって一番の幸せです。

たとえば、みんなが使っている鉛筆の使命は？鉛筆は何のためにあるの？

鉛筆は文字を書くためにあり、最後まで使ってあげること。

すべての人間の大きな使命は、この世の中に天国を作ること。

今の世の中は天国ではありません。

戦争・飢餓がなくなり、その人たちが幸せになれるように、お祈りをしましょう。

世界では6秒の間にひとり、ご飯が食べられなくて小さな子供が死んでいます。

大人も入れたら、一日に2万5千人がご飯を食べられなくて死んでいます。

（※数字については諸説あるので事前に必ず調べること）

なぜ生かされているのか？なぜ生まれてきたのか？命を与えられたのか？

一人一人に役割があるから。この世に無駄な人は、誰もいない。

世の中を少しでもよくするために、人間は生かされているのです。

◆ 思いやりの心

人は、立場が違ふと考え方が違ふ。それを考えるのが思いやりの心。
思いやりの心を持って力を合わせると、大きなことをすることができます。

けんかはなぜおこるのか？なぜ人を傷つけてはいけないのか？

自分が良ければそれでいい→ケンカになる

人は神さまからきれいな魂をもらっています。ひとりひとりが尊い命を授かっているのです。決して傷つけてはなりません。

思いやりの心、好意ある言葉、こういうものをいくら振りまいたところで、損するわけでも減るわけでもない。（出口日出麿尊師さまのお言葉）

「自分だけが正しいのではない」（三代さまのお言葉）

⇔自分だけが正しい（争いが起きる）

「人はみな違ふ」→相手の考え方を認める

自分の正しさを押し付け合うのではなく「あなたはそう思うのですね」

「あなたはそういう考え方なのですね」と認め合うことができたなら争いにはならない。これが相手を受け入れるということです。

他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる。

人はどこから生まれてきたの？

お父さんとお母さんがいて生まれてきた。

天国（霊界）から来ました。

何のために？幸せな世界をつくるために。

「ただ何事も人の世は 直日に見直せ聞直せ 身の過ちは宣り直せ」

人の行いや言葉はすべて何ごとも見直し、聞き直す。相手の行いや言葉をいいように、受け止め腹を立てないようにすること。そうすれば、争いもケンカもなくなります。

たとえ相手が悪かったとしても、何か理由があったのかもしれない。相手のことを理解して受け止めてあげることができればいいですね。

自分が間違っただけの場合は、素直に反省しましょう。そうすることで天国的な心になり幸せになり、その幸せがまわりにも広がっていくのです。

◆感謝のころ

- ・自分たちを生かしてくださる火・水・土の神さま、空気の恩に感謝
- ・生んでくれた、育ててくれた親に感謝
- ・勉強を教えてくれている先生、学校にも感謝
- ・夏期学級でみんなのお世話をしてくれたリーダーに
- ・毎回ご飯を作ってくれた直心会の方に

何かをしてもらった時にお礼をいう。それが感謝の心です。

でも御礼が言えない人もいます。お世話になった人にたった一言でも「ありがとう」とお礼を言う。そうすると、自分も相手も良い気持ちになります。

夏期学級に参加するには、親や回りの人から勧めてもらえないと参加できません。

また、夏期学級のお世話をしてくださる。リーダーや庶務、チーフがいないと夏期学級がなりたちません。もっと言えば大本がないと、神さまが、教主さまがいらっしゃらないと夏期学級は開催できません。

同じ班の仲間がいるから、一緒に楽しく生活ができました。

たくさんの人々やモノに支えられ、お世話になって生きている。

この恩を忘れてはいけません。

人間は様々な恩をいろいろなところから受けています。知らないから文句を言っています。暑すぎる。お小遣いが少ない、なんで新しい服を買ってくれない、宿題ばかり。日本ってかっこわるい。私の回りっていやな人ばかり。

でも、みなさんは今、天の恩、父母の恩、国の恩、衆生の恩（※【カテゴリ2 天地の恩 参照】）を知りました。この四つの恩は絶対に忘れないでください。

そして、この恩を感じる事ができたら、それに報いてください。

報いるとは行動に表し、恩返しをすることです。

みなさんは、夏期学級で多くの恩を感じられるようになったと思います。

日々のお礼拝もそうです。神さまに日々の感謝とお願いをするためにお礼拝しています。

三首のお歌も食べ物を作ってくれた神さまへの感謝、食べれることへの感謝を忘れないためにお歌を唱えます。「いただきます」とは命をいただくので「いただきます」といいます。まず恩を感じたら、「ありがとう」という言葉で感謝を表してください。

「ありがとう」という感謝の言葉をいつも使っているとそこには幸せがやってきます。

最後に、私とみなさんでお互いに講座の時間を一緒に過ごせたことに感謝して「ありがとうございました」とお互いに言って終わりたいと思います。

では、せーのー。「ありがとうございました」

カテゴリ 2

天地の恩

2016/04/16

大本青年部 作成

| | |
|--------------------|----|
| 天の恩..... | 1 |
| ◆地球の奇跡..... | 1 |
| ◆身近にある天の恩..... | 2 |
| ◆みんな「生かされている」..... | 3 |
| 衆生の恩..... | 4 |
| 火・土・水の恩..... | 5 |
| ◆火の恩..... | 6 |
| ◆土の恩..... | 6 |
| ◆お土の心..... | 9 |
| ◆水の恩..... | 10 |
| ◆「水」についてのお話..... | 11 |
| ◆食べ物の大切さ..... | 14 |
| 父母の恩..... | 15 |
| ◆先祖への感謝..... | 15 |
| ◆幸せに生きるために..... | 16 |
| 国の恩..... | 17 |
| ◆日本の国に生まれた恩..... | 17 |
| ◆地球環境について考える..... | 18 |
| ◆食糧難の問題..... | 19 |

天の恩

◆地球の奇跡

地球の大きさをピンポン玉（40mm）とすると月の大きさは？

⇒パチンコ玉（11mm）

太陽の大きさは土俵（地球の約 100 倍の大きさ）

太陽の温度は？

約 6,000 度（表面温度）

実際に比較すると…（【アニメーション】で表示するとなおわかり良い）

太陽と地球の関係

この太陽と地球の関係が奇跡的です。太陽の大きさが今より大きくても小さくても早く燃えつきます。太陽と地球の距離も絶妙です。ちょっとでも地球に近づき過ぎたら、地球はどうなっているのでしょうか？ とうぜん、暑くて住めません。生き物が生きていく環境ではないのです。

逆に、太陽が遠かったら？ 寒くて生きていくことができません。

太陽があるから動物、植物は生きていけます。

植物は太陽の光を栄養に変えて生長します。だから野菜を食べられます。

春夏秋冬をつくる

また、地球の大きさ、太陽との距離、自転の軸の傾き、公転、自転の速さ、地球の持つ磁界、オゾン層などが絶妙のバランスをもって今の気候、環境、春夏秋冬を作りだしています。この全てのバランスが保たれているからこそ、私たち人間は地球に住めて生きていくことができるのです。

金星は地球のとなりの星で大きさ、重さとも地球と良く似ていますが、人が住むことができなければ、植物が育つこともできません。なぜなら二酸化炭素のおおわれた灼熱地獄（温度 500 度近く）だからです。

水星は水も空気もなく、昼間は 400 度、夜はマイナス 160 度に下がります。

宇宙とは計りしれない広さ、人間には判らない。

宇宙飛行士が宇宙から地球を見て、青い惑星「地球」の美しさに感動して神さまはいる

のだと直感で感じられたそうです。

地球が作られたのが1月1日とすれば人類が生まれたのは12月31日。こんなに物が豊富になったのはつい最近、12月31日の午後11時30分ぐらい。

地球がくるくる自転しているから昼と夜があります。

月があるから海の満ち引きがあり、沿岸の海洋植物、動物は生きられるのです。

引力という星同士が引っ張り合う力も絶妙です。

◆身近にある天の恩

少し目の向け方を変えると、私たち人間はたくさん、天の恩を受けていることに気づきます。

しかし、不思議だと思いませんか？

人間がちゃんと生きていけるようにこの世の中はあります。

ご飯も毎日ちゃんと食べることができます。

お家もあります。服も着ることができます。今の世の中は大変便利です。

車もあるし、TVもある。

みなさんはそんな生活を当たり前だと思っていないですか？

たくさん之恩があるから生きていけるのです。

もっとよく考えてみてください。

人間が食べているもの、使っているものはすべて自然の恵みをいただいています。天之恩があるからこそ、食べ物を食べることができ、木や石、鉄などの資源があるおかげで便利で快適な生活をする事ができるのです。土や水や太陽の光、木や石や鉄などは人間が作り出すことはできないものです。

神さまがちゃんと準備していると思わざるおえません。

わたしたちはその恵みをいただいているからこそ、生きていくことができるのです。むしろ、生かされているというべきかもしれません。

まずは、私たちがどれだけ恩を受けているかを知ることが大切です。

◆みんな「生かされている」

スイカはどのように育ったのでしょうか。

農家の人が育てたようですが、農家の人はスイカが美味しく育つように手助けをしてあげただけです。

【質問】スイカが育つのに必要なものは？

⇒太陽・土・水

太陽・土・水はすべて人間が作れるものではありません。

天気はどうでしょう？

明日の天気を自由に操れる人間はいません。それは、神さまのお力だからです。

雨の日があるから、スイカは水をとりこむことができ、晴れの日があるから、太陽の光を受けて大きくておいしいスイカに育つことができるのです。

そして、土があるから栄養をたくさん吸収することができるのです。

【質問】生きることとは？

食べること・寝ること・呼吸すること・心臓を動かすこと・排泄すること…

【質問】人間が生きていくのに必要なものは？

⇒食べ物・飲み物・家・火・服・・・・。

すべては自然からもらっている（いただいている）ものです。

【質問】〈食べること〉今日のお昼は何を食べましたか？

人は、食べ物を食べないと死んでしまいます。

水と空気と太陽 火の恩・土の恩・水の恩

水を清潔に保っているもの⇒川の水・海の水

空気を清潔に保っているもの⇒風・雨・台風

そして、このお恵みをお与えてくださっている神さまにありがとうございます。という気持ちを込めてお祈りをさせていただきます。これが感謝の心です。

私たちが、生きていることは「神さまのおかげ」です。

「生きていることは、生かされていること」なのです。

感謝することが大切。そのためにお礼をするのです。

衆生の恩

夏期学級に目を向けてみましょう

夏期学級に目を向けて、周りから受けている恩を考えてみましょう。

考えてみれば、たくさんの恩があることに気がつきますね。

こんなたくさんの恩に恵まれている私たちは幸せなのです。

命あるモノ、生きとし生けるもの

虫がきれいな人いますか？

でも、その虫たちがいるから、私たちは生きることができます。

食物連鎖

植物を草食動物（シマウマ、ヒツジ）が食べます。草食動物を肉食動物（トラ、ライオン）が食べます。そしてその肉食動物は、やがて死ぬと土に帰って植物の養分になります。厳しい自然環境ですが、すべての命が他の命の役に立ち、支えあっているのです。

※図に書いて説明（魚、野菜、植物）その上に人が成り立っている。

ミツバチのはたらき

「もしハチ（ミツバチ）が地球上からいなくなると、人間は4年以上は生きることができない。ハチがいなくなると受粉ができなくなり、そして植物がなくなり、そして人間がいなくなる」—アインシュタイン博士が語ったとされる言葉です。

花が咲き、蜜が出る植物は、受粉しなければ実ができない。その「受粉」の手助けをしているのがミツバチです。受粉できないと実がならず、種もできないため、植物は子孫を残すことができません。そうすると、森がなくなります。森がなくなると、動物が生きていけなくなります。そして、川も大きく変わります。

山に降った雨は、木々や土壌のミネラルや鉱物などの成分を含み、川に流れていきます。豊かな川に生物もいます。川は人間にも飲料水をはじめ、農業用水、川魚など多くの恩恵を与えながら海にたどりつきます。

海に流れ込む栄養豊かな川は、プランクトンの餌や、海草の栄養分などを運び、魚など、海の幸も育んでくれます。

たくさんの命がたくさんの命を支えて自然環境が守られています

そのおかげで、私たちも生きていくことができるのです。生かされているのです。

自然環境について

身近なところで水や土を汚したり、いろいろと自然環境を損なうことを続けていくと、遠くの海の魚にまで影響が出てきます。

地球はすべてつながっていて、良い影響も悪い影響も伝わってしまいますのです。

今は自然環境が損なわれ、異常気象や大災害が起きてしまいます。

自然環境を守るために私たちができることは、たくさんあります。

まずは、自然、資源を大切にすることです。

無駄にしない。食べ物を残さない、洗剤は最小限に。

火・土・水の恩

聖師さまのお歌

「火と水と土とこの世になかりせばすべてのものは生まれざるらむ」

神さまのお力によって地球ができ、火・土・水が生み出され自然が作られました。その中でわたしたち人間が生活をし、生かされています。土は神さまの体、水は神さまの血です。ただ、なんとなく火があつて土があつて水があり自然があるわけではなく人を生かすために神さまが与えてくださっているということです。

お米が育つために必要なもの

「米」という字は八十八という字になります。これは「米」を作るために八十八回もの人や自然の力、手入れが加えられてようやく出来ると言う意味が含まれています。

お米のご飯を食べるのは簡単です。しかし、このご飯を食べるために、農家の人が一生懸命、手間をかけてつくってくれているから食べることができるのです。

作っている人がいるからお米が買え、食べることができるのです。それは、お父さんやお母さんが一生懸命働いてくれているからです。そして、肝心なのはお米が育つには自然の恵みが必要だということ。それがなくてはお米は育ちませんね。ご飯を食べることもできません。自然の恵みとは天のお恵みです。土や水、火（陽）のご恩があるからお米を育てることができるというわけなんです。

米だけではなくカボチャもナスもトマトもズッキーニもジャガイモも白菜もレタスもキャベツもゴーヤも火・土・水あと人の手が無ければ作ることはできません。

◆火の恩

みなさん想像してください。

今、火が使えなかったらどうなる？

太陽の火が消えたらどうなる？

寒いときあたたまれない。今日のお昼ご飯も食べられなくなります。火が使えなくなったらご飯を作ることができなくなってしまいます。焼いたり煮たりする食べ物が食べられなくなります。火は消毒をする力があって火で焼いて熱を通すことで、生では食べられない肉や魚もお腹を壊さず食べられるようになります。

みなさんはカボチャを生で食べますか？

そうではなく煮たり、焼いたりして火で調理しますね。そのおかげで石みたいに固いカボチャも皮ごと食べられるようにしてくれます。

火の恩には日（ひ）の恩もあります。

つまり太陽のことです。

では太陽が消えたらどうなる？

洗濯物が干せなくなる。

寒くなる……。

いや、もっと大変なことが起きてしまうのです。

太陽の火が消えたら地球は真っ暗になってしまいます。

次に地球はだんだん冷えてきて人が住めなくなり最終的に凍って死んでしまいます。

太陽があるお蔭で地球はちょうどよい明るさでちょうどいい温かさになり快適に暮らすことができます。太陽がなければ生きることができないのです。しかも、太陽と地球の距離が絶妙な位置にあります。近すぎれば燃えてしまうし、遠すぎれば、凍ってしまうのです。奇跡としかいいようがありません。これが神さまの意図的なお力なのです。

神さまは人間を生かすために必要なものを与えてくださっているのです。

◆土の恩

【問題】土が3センチできるのに何年かかるでしょうか？

A: 3年 B: 30年 C: 100年 D: 1,000年

正解=D 1千年、30センチで1万年

野菜や果物に感謝しても、それを育んでくれる土に感謝していますか？

土がないと歩けない、野菜や果物も育てられない、

ということは、お肉も魚も食べられない。

土は、空気や水と同じようになくってはならないものです。
土がないと、地球上の生物は生きていけません。

土の粒と粒の間にはすきまがあって、たくさん雨が降ると、土に雨水がしみこんでいくので少しくらいの雨では、洪水になりません。また、汚れた水が流れてくると土にしみこみ、細かいゴミなどは土に残って、水をきれいにしてくれています。

土を水でこねて焼くと、お皿や茶碗を作ることもできる。レンガを作って、家を作ることだってできる。土は人のくらしにも、役に立っています。

土が無くなったらどうなる？

土が無くなったら植物や食べ物を植えることができなくなります。
育てることもできません。
海や湖の中に木は生えていますか？生えていませんね。
土があるおかげで植物や食物は生きることができます。
土がなかったら人は住むところも無くなってしまいます。建物の下にも土があります。そのおかげで建物が立って人が住むことができます。
人が住んでいる大地は約 30 億年の長い年月をかけて岩や石が太陽と水と空気の力で削られて細かく小さくなって最後には土になります。3 センチの深さの土ができるまでになんと 1 千年以上の年月がかかるのです。簡単に土を増やすことはできないのです。
また「お土」には病気やけが、傷などを治す力もあります。

土はどうやってできたのかな？

地球ができたばかりのころ、地球は熱くドロドロにとけたマグマのかたまりでした。
それが長い時間をかけて冷えて岩石ができた。
岩石は太陽の光や熱を受け、風や雨によって細かくくだけて、砂になっていきました。
ねばり気のある性質にかわって、粘土になったものもあります。
やがて地球に、植物が生まれました。植物は枯れて腐ると溶けずにのこって養分になります。細かな砂にしだいに植物の養分がたくわえられ、土ができたのです。
植物が生まれた 4 億年くらい前から土は少しずつ作られて、地球は今のよう土におおわれる大地になったのです。
岩石が養分をふくんだ土になるためには、植物のはたらきが必要なのですね。

土のなかにいる生きものたち

土にはたくさんの生きものが暮らしています。

土を掘りおこしてみると、モグラやねずみなどの動物、トカゲなどの八虫類、小さいミミズや虫の幼虫などの生き物、さらに目には見えないカビや細菌などの微生物も、土の中にはたくさんいます。

微生物とは人間の目で見ることのできない大きさの生き物全てを指す言葉

※土壌中の微生物…細菌、放線菌、糸状菌、藻類など

畑土壌 1g 中には約 1 億以上の微生物がいますと言われています。現在世界の人口が約 73 億人を超えたといわれていますので、一つかみの土壌を集めたら、その中には地球の人口と同じぐらいの微生物が存在するわけです。微生物にとっては一つかみの土壌が地球規模なのです。

植物は土の中の養分（栄養）を吸って生長しています。

動物のフンや死がい、枯れた植物などは、土の中に棲んでいる微生物によって分解されます。そして土の栄養となって、植物を育てています。

野菜がおいしいのは土のおかげ？

みんなは野菜が好きですか？毎日、たくさん食べているかな？

おいしい野菜を作るためには、土がとても大切です。

たとえば、しゃきしゃきとした歯ごたえがあるのは野菜がみずみずしい証拠です。

新鮮な野菜は、土から水をたっぷり吸い上げて育ったものなのです。

それには水はけがよく、水もちのいい土、栄養たっぷりの土でなければなりません。

ミミズのはたらき

畑で米や作物を育てるのには土が大切です。

作物が育ついい土を作るのに、ある生き物が活躍しているのを知っていますか？

それは「ミミズ」です。

ミミズはとってもはたらきものです。畑を耕すとミミズをよく見かけます。ミミズがいる土は植物にとって栄養がたっぷりのいい土だと言われています。

ミミズは土にいいとよく言われますが、どのように役立っているのでしょうか。

ミミズは土に穴を掘って、巣を作っています。昼間は土の中に隠れていて、夜になると巣から出てきて、腐りかけた落ち葉を食べます。そして、泥のような糞を穴のまわりに

積み上げます。ミミズの糞は、土の粒や落ち葉のかけらがまじって、栄養たっぷりの黒土になるんだよ。ミミズは落ち葉や土を食べ、土の中の微生物を消化して土は出します。糞として出すことによって、土はきれいになり養分も含まれます。

ミミズのフンからできた黒土は、植物が育つのに適しています。
黒土のほとんどは、ミミズのおなかを通ったものだといわれています。
植物の肥料を作ってくれているミミズ。
これからは畑などでミミズを見つけたら、感謝しましょうね。
ミミズや目に見えない微生物のおかげで、植物が育ちやすい土ができています。

◆お土の心

かむながらお土の心になるならばこの世に不足ひとつだになし

かむながらみたま磨くといふことは土地^{つち}のころになるをいふなり

いろいろの理くつをやめて土の恩かみしめてみよかみのありかを

(二代様のお歌)

このお歌は二代教主さまのお歌で天地のご恩、そしてお土の尊さ、ありがたさを教えてくださっています。大本の歴代教主さまは農業を通して土に触れることの大切さやお土に感謝することの大切さをおっしゃっています。

わたしたちも土に感謝し、「お土の心」に見習うことが大切です。

では、「お土の心」とはどういう心でしょうか？

わたしたちは土がないと歩くことができません。大地があるから歩くことができます。人間や動物は土を踏みつけて歩いたり、走ったりしています。

土があるから私たちは生きていけるのに、私たちは土に感謝するどころか、土を汚したりしています。

土はどんなに踏まれても、汚されても何ひとつ文句をいいません。それどころか多くの生き物や植物を育み生みだしてくれています。植物も動物も人間も土があるから生きていけるのです。

そんな大切な働きをしているのに、威張ることもなく、すべての生きものの下ですべてを支えて命を生み、育み、浄化してくれているのです。

わたしたちも「お土の心」に見習い
不平不満や文句をやめ、自分ができることをコツコツと精一杯させていただくことが大事です。そのことが、神さまが大変喜ばれることなのです。
そして、心が土のように耕され、魂を成長させていただくことができます。

実際に畑や田んぼで農を体験することはなかなか難しいですが、お家でもできる家庭菜園やプランター栽培もあります。そういった機会をつくってお土に触れさせていただきましょう。

『お土に触れ親しむと大地からおかげをいっぱい頂いて、心も体も元気になります。日水土のお恵みを頂きながら作物を育てると、人間的な底力も徐々についてきます』と四代教主さまはおっしゃっています。

◆水の恩

【質問】一日にどれくらい水を使っているか考えてみよう

- ・水を使う時を考えてテキストに書いてもらう or 発表してもらう
→洗面・歯磨き・食事・飲み水・洗濯・風呂・トイレ
コップ1杯の水でできること（歯磨きと洗面）

【質問】一日どれくらいの量の水をつかっているか？

→約 320 リットル 牛乳パック 320 本分 cf : 50 年前の 2 倍
日本の水の量は 82 位 使用量は 4 位

ところで人は一日どれくらいの水の量を使うのでしょうか？

答えは 240 リットル。2 リットルのペットボトルに例えると 120 本分また、一般的な家庭のお風呂の浴槽 1 杯分の水を消費しています。

じゃあ何にたくさんの水を使っているのかな？

一番水をつかっているのはトイレです。古いロータンク式のトイレでは 1 回、水を流すのに約 12~20 リットルも使うのです。これを 2 リットルのペットボトルに例えると 6 本~10 本トイレに使っているということです。

今は節水型のトイレも増えていますので、3~8 リットルの量ですむようになりました。

二番目はお風呂です。浴槽に貯める水の量は約 200 リットル。2 リットルのペットボトル 100 本分もの水を使っています。また、シャワーを 1 分間出し続けるとなんと 12 リットルもの水をつかってしまう。（ペットボトル 6 本分）蛇口でも同じ。

3 番目は台所などの水回りです。食べ物を煮たり茹でたり湯を沸かしたり物を洗ったり

することで水をたくさん使っています。ご飯のあとの食器とかを洗うのにはすごく水が必要です。洗剤を使ってもやっぱりその洗剤を流すのに大量の水を使ってしまう。（※4番目は洗濯）（※数字については諸説あるので事前に必ず調べること）

人は水を飲まないと生きていけない

アフリカの人々は水汲みに人生の半分を費やしている

「子供たちは朝、学校に行く前、水を確保するために2キロ歩いている」

「私の子供は朝水汲みに行って夕方帰ってくるまで10数キロを歩いている」

苦勞をして水をとりについているのは水がなければ生活ができないし、もっというと生きていけないからなのです。

昔の日本も、水を確保するのに苦勞していました。

しかし、今では日本では蛇口をひねるだけで水をいただくことができます。しかし、まだそうではない国もたくさんあります。水を苦勞して手にいれると大切に使います。水が簡単に手に入ると無駄遣いをしてしまいます。みなさんはどうですか？お水を大切に使っていますか？

世界人口約60億人のうち、12億人は安全な水を飲めないという不衛生な状態にいる不衛生な水しか得られないために毎日6,000人の子供たちが亡くなっておりこれは年間に直すと約200万人という大変な人数です。

(1時間250人、1分間に約4人)（※数字については諸説あるので事前に必ず調べること）

◆「水」についてのお話

地球の表面の何パーセントが水でできているでしょう？

答えは70パーセント3分の2が水でおおわれています。

そしてそのなかで飲むことのできる水はどれだけあるでしょう？

答えはたったの2パーセント。

簡単に説明するところに2リットルのペットボトルがあります。これが世界のすべての水とすると、そのなかから飲める水はたったの1滴分もない。

地球は「水の惑星」といわれています。しかしこの豊富な水の惑星「地球」に存在する水のうち98%が海水で私たち陸上の生物は使えません。使える可能性のある淡水は2%だけです。しかもその2%でさえ大部分は南極や北極などの氷や地下の深層水で、実際に使え

淡水は地球上の水のわずか0.01%しかありません。地球上の水が仮に風呂桶一杯だとすると私たちが使える水はわずかに1滴。この1滴の水をすべての陸上生物が分かち合っているのです。（※数字については諸説あるので事前に必ず調べること）

なぜ、こんなにたくさん水があるのに飲める水はごくわずかなのか？

地球の水はほぼ海水だからです。

人が生活するのに必要な淡水が少ない。

水は人が生きるために欠かせない貴重なものなのです。

水は減りつつある

さて、今の私たちは昔の人とくらべ、水が手にはいりやすくなりました。昔の人は水を使うときは井戸からくみ上げて使っていました。今では蛇口をひねれば沢山水が出てきて井戸に行く必要がなくなりました。そんなに簡単に水が手に入るのでありがたさを忘れる人が増えてきました。そして水の無駄遣いをする人が増えてきました。

そのことが原因でもともと少ししかなかった水が減っていき、水不足の問題が起きました。さらに地球温暖化の影響で気温が上がり地域に降る水の量が減り、水不足また、世界には砂漠が広がる「砂漠化」が問題になってます。

水は汚れつつある

水質汚染も問題になってきています。水を簡単に手に入れることが出来るようになり水を使う量が増えると同時に工場を使った汚い水や家からでた汚い水、風呂の水や洗濯の水、食器を洗ったときにでた水などの汚い水がそのまま川や海に流れることが原因で水が汚れてしまいました。でも、水には汚れをキレイにする力があってある程度なら大丈夫だったんですが。ここ 100 年間の人口の増加と急激工業化が進んだことで水の汚れをキレイにする力が追い付かず、その結果、水の汚れが増えて人や動物、魚などの健康に良くない影響を及ぼすようになりました。

今世界では、7人に1人が安全な水が飲めなくなっています。

また、汚れた水が原因で起こる病気にかかって亡くなる方が1年で1,000万人もいるそうです。

この問題をどうしたらいいでしょう。みなさんにできることはやはり水を大切に使うことと節水を心がけることですね。（※数字については諸説あるので事前に必ず調べること）

どんな節水があるのか？

- ・トイレを使うときは大で流さず小にする。これも立派な節水です。
- ・風呂の残り湯を洗濯機に利用する
- ・朝の歯磨きはコップ1杯の水でできます。

蛇口を1分間流し続けると12リットルの水を簡単に消費してしまいますが、コップ1杯の水なら1リットルも使ってません。これによって水が節約できます。

・風呂に入るときにシャワーを使うときはさっさと使う。流しっぱなしや、ほったらかしにしないこと。

- ・頭や体を洗うときは石鹸の量を少なめにして流す水の量をへらす。

ご飯を食べた後の食器はそのまま洗わずティッシュでふいたりする方法もあります。

また、食事後のお茶碗やお皿にお茶を入れてつけものなどできれいにし、残ったお茶をいただいてお茶碗やお皿をきれいにする作法もあります。これによってお茶碗やお皿を洗う水を少なくすることもできます。

こうした些細なことに気を使うことで沢山の水を節約することができます。チリも積もれば山となる。

また、みなさんだけが節約に気を使うのではなく、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、友達にも節水（水を大切にすること）を呼び掛けてください。みんなで少しずつの量を節約することを意識するだけで、たくさんのお水を節約できるに違いありません。そして、水不足の問題も解決することができるのかもしれません。

「水」がなくなったらどうなりますか？

水が無くなったら洗面ができなくなるし、お風呂も、シャワーを浴びたりすることもできません。洗濯やトイレもそうです。喉の渇きを潤すこともできません。ごはんもつくれません。食べ物を育てることもできません。

人の体は3分の2が水でできています。体の水が不足したら汗がでなくなります。

汗がでなくなると熱を体の外に流す働きができなくなります。だから熱がでた時は水分補給が必要ですね。次におしっこがでなくなります。おしっこがでなくなると体から出さない悪いものが体にたまって病気になってしまいます。

人は2～3週間くらい食べ物を食べなくても生きていけますが水がなくなったら1週間も生きていくことはできません。

◆ 食べ物の大切さ

食べ物は大切に

世界では7人に1人が日々飢えています

飢餓による死

世界では、飢餓やそれに関連する病気のため、毎日2万5千人が命を落としています。そのうち、5歳以下の子どもは1万4千人を占めます。時間に直すと、6秒に1人、子どもが飢えを原因として命を落としています。子どもの飢餓は身体的・知的発達の遅れにつながり、さらにその子どもが住む国の経済に大きな損失をもたらします。

飢えと栄養不足は、世界第1位の死亡原因です。（データ：WHO 世界保健機関）

ちなみに日本は「がん」約30%

⇒毎日食べることは「あたりまえ」ではありません。とつても「ありがたい」ことなのです。（※数字については諸説あるので事前に必ず調べること）

お米一粒にも三体の神さまがいらっしゃいます。神さまのお恵みをいただしてお米や野菜を育てているのは農家の方たちです。そのお米や野菜はトラックに乗って市場に行き、お店のような販売所で売られます。そして、それを、お家の人がおいしい料理を作ってくれます。

みなさんが、食べているご飯はいろいろな方たちが一生懸命働いているからこそ毎日いただくことができるのです。

ですから、なるべく好き嫌いはなくして食べ残しをしないようにしましょう。

そして、感謝していただくことも忘れずに。

旬のもの（春夏秋冬）を食べる

夏はトマト、きゅうり、すいかなど

冬は大根、かぶら、白菜など。

食べ物は旬のものが一番おいしい。しかも、安い。

父母の恩

みなさんは、おとうさん、おかあさんに感謝していますか？
ありがたいな、と思っけていても、言葉でちゃんと伝えないと意味がありませんよ。
ある時、どうしてもお小遣いのほしい子供が親宛に請求書を作ってテーブルに置いといた。

内容は

「お皿洗い代・・・・・・・・〇〇円 おつかい代・・・・・・・・〇〇円
お風呂の掃除代・・・・・・・・〇〇円」

次の日親から、請求された金額分のお小遣いと一緒に子供宛の請求書がテーブルに置いてあった。

内容は

- ・オムツ取り替え代・・・・・・・・無料 ・ミルク代・・・・・・・・無料
- ・食事代・・・・・・・・無料 ・雨の日、学校までの送迎代・・・・・・・・無料
- ・熱を出した時の看病代・・・・・・・・無料

親の愛は無償なんだというお話・・・・・・・・

◆先祖への感謝—人間として生まれた奇跡（誕生した奇跡）

みなさんは、両親から生まれて来ました。これは紛れもない事実です。
両親にも両親がいます。皆さんから見るとおじいちゃんおばあちゃんです。
一代 30 年として 4 世代さかのぼると 120 年（明治時代）祖霊さまの数は約 30 人
30 代さかのぼると 900 年前（1112 年）平安時代。21 億 4748 万 3646 人
日本の人口…1 億 2,800 万人

一人でも欠けていたらみなさんは存在しません。
それだけ、先祖には感謝しなくてははいけません。
先祖への感謝一番大切なのが、祈りの言葉（祝詞）、
それと真心のこもったお供えです。祖霊さまもお供えモノがないとお腹が空きます。
父母、おとうさん、おかあさんへの感謝とともに、先祖への感謝を忘れないように。
みろく殿では、祖霊さまがおまつりされています。みなさんも将来は祖霊さまです。

◆幸せに生きるために…遺伝子のスイッチをONに

みなさんはたまたま生まれたのではなくこの世に生まれさせていただいたのです。けっして偶然ではありません。必然なのです。

この世に生まれてきた意味が必ずあるということを忘れないでください。

先祖が一人でも欠けていたら皆さんはいません。みんなひとりひとりが大切な存在です。

だから、お互いがお互いを思いやることです。いじめはいけません。

みなさんはいいところをたくさん持っています。・・・

天才でも普通の人でも、遺伝子の持っている三十億の遺伝子情報は、みんな同じ、

「能力の差とはその中の遺伝子がオンになっているか、オフになっているかの差に過ぎない。」とされています。(筑波大学名誉教授 村上和雄先生)

人には『できること』と『できないこと』がありますが、自分で自分の枠をつくってしまっ、『できない』と思っていることのほうが圧倒的に多い。

いままで『できない』とあって『やらなかったこと』のなかに、

どれだけ『できること』があったか。とを考えてみてください。

生きるとは、単に生きながらえることばかりでなく、何かに命をかけることでもあります。何事も「できない」と思わず一生懸命、努力することです。そうすることで自分のなかにある可能性が花ひらくのです。

人間の実際に働いている遺伝子は5-10%に過ぎません。

つまり人間の持つ潜在能力はとてつもなく大きいのです。

遺伝子の機能は、電灯のスイッチのように、点けたり消したり (on/off) できます。

人生をよりよく生きるためには、良い遺伝子（例えば元気が出たり、素肌がつやつやしたり）をスイッチ on にし、悪い遺伝子（例えば誰もが持つ発ガン遺伝子）をスイッチ off にしたいものです。

スイッチ on/off には、その人の生き方が大きく影響しています。

キーワードは、「遺伝子ONの生き方」。

人間は誰でも自分の中に、ものすごい力を発揮できる素晴らしい遺伝子を持っているのです。それが今はたとえ眠っていたとしても、その遺伝子のスイッチをONにすることができれば、どんなことだってできます。

つまり、人間の潜在能力が 90%から 95%眠った状態だからです・・・。

では、どうすれば遺伝子のスイッチをONにできるのでしょうか？

ここがポイントです。 幸せに生きるために・・・。

遺伝子のスイッチをONする方法

それは、「感動する」ことと、「笑う」ことだそうです。

「天才には、ひとつだけ共通することがある。それは、みんな美しい自然の中で育ったということである……。」

美しい自然の中で育ったということは、自然を見て毎日「感動」していたということだからです。

「感動」は、どうも潜在能力を呼び覚ますためには、必要なことには間違いないようです。

幸せに生きるために、遺伝子のスイッチをONにする。

そのためにも、まず神様にお祈りすることが大事です。

神さまにお祈りをする事で自分の持っている力を神さまが引きだして下さり、良い方向へ導いてくださいます。

また、美しい自然を見て感動したり、素晴らしい芸術・映画・音楽等に触れて感動したり、思いやりをもって友達と接すること、毎日笑って暮らすことが、寝る無限の可能性を引き出してくれる。

まだ、自分が気づいていない能力はいっぱいあります。それを目覚めさせることができるのです。

国の恩

◆日本の国に生まれた恩

どこのだれとして生まれることに自由はない（国、地域、性別、顔、両親、体）

みなさんはこの世界に、選んで生まれてきました。

世界へ目を向けると同世代の子はどのような生活を送っているか

80万人の子供が無理矢理軍隊にかり出されています。

炭鉱で働く小学生、ゴミ山で生活する小学生。

自然環境に恵まれた日本、法治国家の日本、伝統文化、芸術に恵まれた日本

日本に生まれたきたことに感謝し、恩を感じなくてはなりません。

ちょっとしたことでめんどくさい。うるさい。お父さんお母さんはわかってくれない。そんなこと言ってもらえない。

世界にはみなさんみたいに生活を送れない同級生がたくさんいます。

日本に生まれた奇跡

世界の人口は約73億人。生まれ変わった時、再び日本人に生まれる確率はわずか1.7%です。一方で中国に生まれる確率は19%です。

あなたが生まれた奇跡は？

この世に人間として存在していることは、
1億円の宝くじが百万回連続で当たったほどの、幸運なのです。

◆地球環境について考える

世界には厳しい生活環境で暮らす人びと、子どもたちがたくさんいます。
食べ物や水を得るために、学校に通えず、朝から夜まで働きづめの子どもたち。
道で折り重なるように眠るストリート・チルドレン。
村を焼かれ家族を殺害され、さらわれて兵士として戦うことを強要される幼い子どもたち。

異常気象による大きな災害で、住むところも仕事も失い、難民となる人びと……。そんな状況を伝えるテレビ番組を観ていた時の事、「ああ、ぼくは日本人で良かった」と小学生の息子が言いました。

日本では、多くの人々が豊かに暮らしています。
食べ物も水も遊ぶものにも困ることなく、あり余る程のモノに囲まれて平和に暮らしているけれど、自分がひどい目にあう国に生まれなくて良かったって、それで終わってほしくない、決して無関係ではないと思ってほしいです。

地球環境を考えたとき、いろいろな問題に直面しています。
地球温暖化の問題、大気汚染や、オゾン層の破壊、原子力発電の問題。
これは、すべて人間が引き起こしたものです。
豊かになろう、贅沢になろうという気持ちは悪い事ではないにしても、それが強くなりすぎ度をこして起きた問題です。
私たちの心をあらためないかぎりこの問題を解決することはできません。

「少し貧しく、少しひもじく、少し寒く」の生活を……

◆食糧難の問題

食卓の上に並ぶ食材の中には、他の国から運ばれて来ている物がたくさん。

なのに、食べ残しも多い。

みんなの力でもっと地球をよくするのは、どうしたらいいのか？

- ・日本の食糧自給率は、約 40%（平成 23 年）で大半を輸入に頼っている。
- ・その一方、年間の食品廃棄量は食糧消費全体の 2 割にあたる約 1,800 万トン。
- ・このうち、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど本来食べれたはずの、いわゆる「食品ロス」は 500 万トン～800 万トンとされています。
- ・日本 コメの年間収穫量約 850 万トン（平成 24 年）
- ・世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量年間約 390 万トン
- ・日本人 1 人当たりで“おにぎり約 1～2 個分”が毎日捨てられている計算になる
- ・節分の日 恵方巻 約 600 万本が廃棄（平成 28 年）

今、世界の飢餓人口は 7 億 9500 万人。9 人に 1 人が飢餓に苦しんでいます。

食料は足りないのかというと実は世界では、穀物だけでも世界中の人が生きていくのに必要な量の倍以上近くが生産されて他の食料をあわせればあまりあるほどのものがある。

毎年世界では、22～23 億トンの穀物が生産されていて、もしこれが世界に住む 72 億人に平等に分配されていれば、一人あたり年間 320kg 以上食べられることとなります。日本人が実際に食べている穀物は、年間 160 キログラム。世界では穀物に加えて野菜などが生産されていますし、在庫があることを考えれば、すべての人たちが十分に食べられるだけの食べ物が生産されています。

世界の穀物生産量（2008 年）

$22\text{億}2450\text{万 t} \div 67\text{億}4970\text{万人} = 1\text{人}330\text{kg}$ （1 年の必要穀物量は 1 人 180kg）しかし、世界の飢餓人口は減るどころか増え続けています。

世界人口の 18% が先進国に住み、世界の穀物の 39% を消費。

5 分の 1 の先進国の人が、世界中の穀物の 5 分の 2 を消費。

そして、世界の 5 分の 4 の開発途上といわれる国に住み、世界の 5 分の 3 の穀物で暮らしています。

飢餓は現実存在する。しかし、食糧は不足していない。

（全て人心の心、興廃によってもたらされる）

東日本大震災から学んだこと

～宮城県・陸上中学校 平成23年卒業式の答辞より～

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中、
わたくしたちの為に、卒業式を挙げていただきありがとうございます。

ちょうど、十日前の三月十二日、春を思わせる暖かな日でした。
わたくしたちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、
通いなれたこの学舎を、五十七名揃って巣立つ筈でした。

前日の十一日。一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、
十数時間後の卒業式に、思いを馳せた友もいたことでしょう。

「東日本大震災」と名づけられる、天変地異が起こるとも知らずに・・・

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、
内外から高く評価され、十分な訓練もしていたわたくしたちでした。

しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、
わたくしたちから大切なものを、容赦なく奪っていきました。
天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は、十四時四十六分を指したままです。でも、時は確実に流れています。

生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、
強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。

しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、
助け合って生きていく事が、これからの、わたくしたちの使命です。

わたくしたちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。
どこにいても、何をしようとも、
この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、
いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごして下さい。

先生方、親身の御指導、ありがとうございました。
先生方が、いかにわたくしたちを思って下さっていたか、今になってよく分かります。

地域の皆さん、これまで様々な御支援をいただき、ありがとうございました。
これからもよろしくお願い致します。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これからわたくしたちが歩いていく姿を見守っていて下さい。必ず、よき社会人になります。

わたくしは、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。
最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成二十三年三月二十二日 第六十四回卒業生代表 梶原 裕太

カテゴリ 3

感謝の心と 善言美詞

2016/04/16

大本青年部 作成

| | |
|-----------------------------|---|
| 感謝のころ | 1 |
| ◆「ありがとう」の大切さ | 1 |
| ◆「恩」と「感謝」について | 2 |
| ◆感謝の気持ちで人を幸せに | 3 |
| ◆みんな持っている感謝の心 | 5 |
| 善言美詞 | 5 |
| ◆言霊（ことたま）について | 6 |
| ◆良い言葉、きれいな言葉を使う（善言美詞） | 7 |
| ◆「もったいない」と「いただきます」 | 8 |
| ◆「できない」ではなく「できる」と思う | 9 |

感謝のころ

例えば、プレゼントをもらいました。

それがすごく自分にうれしいもの、自分にとって必要なものだったら「ありがとう」と感謝するよね。ずっと欲しかった勉強机をおばあちゃんが買ってくれた。うれしくて大切に使うよね。うれしくて御礼の手紙を書くかもしれない。

あなたはその感謝の気持ちをどうやってあらわしますか？

神さまに感謝する気持ちをもって

私たちは神さまにたくさんのお恵み（天の恩【お水、食べ物、太陽、お土、生きていくうえで欠かせないもの…】）をいただいています。

毎日を無事に過ごさせていただけのも神さまにお守りをいただいているからです。その思いや気持ちを神さまに感謝します。

神さまに感謝するために、朝夕のお祈りを真剣な気持ちでしっかりとさせていただきますよう。

すべてのものに「ありがとう」と言うこと

感謝の気持ちを持つことはとても大切なこと。

神さまをおまつりしてないお家でも、お水、ご飯、太陽、風に「ありがとう」と言うことはできます。やってみてください。

おじいちゃん、おばあちゃんに手紙を書いて「ありがとう」と伝える。

そしたら、おじいちゃんもおばあちゃんもうれしい気持ちになります。

自分の大切な人から「ありがとう」と言われると嬉しい気持ちになります。みんなもそうですよ。

神さまも同じです。いつも「ありがとう」の気持ちを持っていたら、いざという時には守ってくださいます。困った時は必ず助けてくださります。神さまはずっと見ていてくださるから。みんなのことを大切に思ってくさっているのです。

◆「ありがとう」の大切さ

ありがとうの意味 漢字で書くと・・・

「有難う」＝「有難いこと」⇒「有る」＋「難しい」＋「事」

「あり得ない程のこと」「めったにないこと」（あり得ない程のご親切に感謝します）

感謝と喜びを表現した言葉

反対用語「あたりまえ」→ここに感謝の心はありません

英語では？

英語…「Thank you (サンキュー)」「Thanks (サンクス)」感謝または感謝します。
英語では「感謝」という言葉そのもの
日本語の「ありがとう」は感謝を略していますから感謝の気持ちを込めて「ありがとう」と言えるといいですね。

◆「恩」と「感謝」について 「恩」→「感謝」

まずは「恩」…

めぐむ。なさをかける。受けた方でありがたく思うべき行為。
(岩波国語辞典第五版)
ほどこす側、与える側、給食をよそう側
なので、受けた側がその行為に「ありがたい」という気持ちにならなければ「恩」にはならない。
ありがた迷惑という言葉もあります

次は感謝… 「恩」→「人」→「感謝」

ありがたいと思うこと。心にありがたく感ずること。
ほどこされる側、受け取る側、給食をならんで受け取る側
つまり感謝する心があって初めて恩を感じることができます。

感謝できる気持ちを学ぶ

感謝する心は誰もが持っています。つまり誰もが「ありがとう」と言うことができます。でも、だんだんと感謝する心が薄れていくと「ありがとう」と言える機会が少なくなってしまいます。
その感謝できる気持ち、「ありがとう」がたくさん言えるように夏期学級でいっぱい学んでほしいです。

恩を思うこと、気づくことで感謝することができます

感謝をしたら自分がどれだけ恵まれていて周りの人たち（家族、友達、先生）に助けられ、支えられ、守られているかを思うようになる。さらに、生きていくために大きな愛（神さまの愛とお恵み）に包まれていることが理解できるようになります。そして、その愛を今度は他の人たちに与えることができるようになります。そうすると周りの人たちも嬉しい気持ち、幸せな気持ちにさせることができます。それがもっとも神さまがお喜びになられることです。

恩を感じないといついつい文句（わがまま）ばかりを言ってしまう

おこずかいが少ない、なんで新しい服を買ってくれない、雨ばかりで嫌になっちゃう、暑すぎる、宿題ばかり。不平不満や文句ばかり。そうすると気持ちがだんだん嫌になってしまいますね。幸せな気持ちにはなれませんね。

◆感謝の気持ちで人を幸せに

食べることや、寝ること、これをやめてしまったら、生きていくことはできません。

ご飯を食べる前にみんなは、なんて言いますか？

「いただきます」と言います。これは、感謝をかたちに表した言葉です。「いただきます」と言わなくても、ご飯を食べることはできます。

でもこれって（感謝の気持ちを言葉にすること）、すごく大事なことです。

たしかに感謝をしなくても人は生きていけます。

でも、感謝の気持ちを持つことで人はもっともっと幸せになることができるようになります。

感謝の気持ちを持つことは、たくさんの幸せに気づくことができるようになる、ということ。感謝の気持ちは「天国の心」です。

「ありがとう」を言うときは、どんな時？

みんなは、人に「ありがとう」と言うときは、どんな時ですか？うれしい時ですね。

自分では、できないことを人にしてもらった時。やさしい言葉をかけてもらった時。助けてもらった時。

当たり前でない＝感謝の心

皆が、普通だと思っている事でも、ありがたいな、と感謝の心をもつと、うれしくなります。＜感謝をする＝うれしくなる＝幸せ> となります。

人は、自分ひとりで生きているようですが、人は生かされています。

人を超えた力（自然）のめぐみに感謝して

人間の思ったとおりにならないものは、何があるでしょうか？

（雨・風・地震・・・）

これだけを考えても、人間がこの自然のなかではすごく小さく、力のないことが分ります。

野菜・果物（例を挙げる）は、誰が作っていますか？

人がつくっているようでも、ほんとうはつくっていません。

人は野菜や果物を育てることはできますが、野菜や果物の種をつくることはできません。

野菜や果物を育てるためには土や水、太陽の光が必要です。しかし、人は土や水、太陽の光をつくることはできません。自然の恵みがあるから育てることができるのです。

毎日いただく食事も、自然の恵みをいただき、生かされているということです。

だから、食事の前には、「いただきます」と感謝の心を表します。そして大本では、三首のお歌のという、大本の二代教主さまがつくられた歌を、「いただきます」の前に、唱えます。

人間は何もないところから、新しい物をつくることはできません。何もない空間から、作ろうと思ってもできません。

みんなの周りにあるもの、例えば「家」→木→土・水・太陽・空気を利用しているので、私たちは生かされているのです。

私たちは生かされている

人は自分ひとりで生きているようで、ほんとうは生かされています。

生かされていることが分かれば、すべてのことを、当たり前とは思わず、一つひとつ小さなことにでも、感謝の心をもつことができます。

生きていることは、当たり前じゃない。とってすごいこと。素晴らしいことなのです。
(寝ている時にも心臓は動いている)

■ある社長の話

杉崎仁志。経営コンサルタント（会社運営の指導者）の社長
企業して5億の借金。ホームレスになって ある住職に拾われます。

【様々なことを思い出しなさい。そのすべてにありがとうございますと言うのです】

突然辞めた会社のことを思いだし、お詫びと感謝しにいきます。

すると社長の紹介で、ある会社の顧問に。

そこは上司や部下への愚口ばかりの赤字会社だったのだけでも、彼は「ありがとうございます」を多発し、その口癖は次々に人々へと伝染していった。悪口や陰口を言う者はいなくなりプラスの想念が飛び交うようになった企画とも呼べない抽象的な発言でも、誰かが間髪要れずに合いの手を入れる「それはおもしろい」と。

すると「こうしたらもっと面白くなる」とプラスの発言は相乗効果を生み出した！会社の雰囲気の移り変わりは、収益をも変化させていた。彼が来た年の収支報告は、五年ぶりの黒字になった！

■「長友佑都（ゆうと）選手」

自分がインテルに移籍後、初ゴールを決め、周りの選手や監督、コーチ、ファンの方たちに感謝をして、パフォーマンス「お辞儀（ありがとう）」を発信している

彼が感謝し続けることによって、チームメイトからも慕われる人になり、幸せをつかみました。

◆みんな持っている感謝の心

感謝する心は誰もが持っている。

しかし、「ありがとう」と思ったり、言ったりするためには、感謝する心がないと言えません。

感謝する心がない人いますか？

いませんね。感謝する心は誰もが生まれながらに持っています。

つまり、いつでも「ありがとう」と言うことができます。

だんだんと感謝する心が薄れると「ありがとうございました」と言うことが少なくなってしまう。

みなさんにお聞きします。前は「ありがとうございました」と言えていたけど、最近は何も言えてないことってありますか？

「お母さんに感謝」「お父さんに感謝」「友達に感謝」「先生に感謝」

夏期学級に参加して言えるようになったこともあるよね。⇒「三首のお歌」

その他にも、いっぱいあるよね。

ではこれからその中でも特に感謝しなくてはならない、四つのことをお伝えします。

4つのこと「天の恩、父母の恩、国の恩、衆生（しゅじょう）の恩」

※【カテゴリ2 天地の恩】参照

善言美詞

言葉には影響力があります。

言葉の大切さ…言葉で救われる、言葉の暴力で傷つくことも

私たちは、日常生活の中で言葉を使いますね。

その言葉が私たちの人生にどのくらい大きな影響力を

与えるかということを意識していますか？

- ・言葉は、私たちの人生を幸せで豊かなものにする力を持っている
- ・私たちの感情で左右したり、他人を傷つけたりする力も持っています。

私たちも言葉の影響力を自覚して使う必要がある→いい言葉を使う人はいい人生になる

◆言霊（ことたま）について

日本は、「言霊の幸はう国」「言霊の生ける国」古来より言葉は大切にされてきた。

言葉には目に見えないエネルギーがある。

善きにつけ悪しきにつけて必ず言葉に出したことは実現すると信じられてきた。

言葉はそのエネルギーの波長と同類の出来ごとを引き寄せる。

言葉には魂（こころ）が宿る。

【質問】みなさんが生活の中で発する言葉を一番聞いている人は誰だ？

→自分の言葉を一言ももらさず聞き続けている人

…それは、自分自身です（あなた自身です）

自分の言葉は自分の心に知らず知らずのうちに浸透して大きな影響を与える。

つまり、自分の発している言葉に影響を受けているのです。

良い言葉と言うとその声自分の耳にも入っていき自分の心にも良いのです。

言葉は全て自分に返ってきます。

自分の言葉は自分の潜在意識に浸透して行って考え方に大きく影響を与えている。

声一心の枝（え） 心という根、幹から伸びた枝

動物などは言葉を話せるか？

話すこと（言葉）は神さまからいただいたもの。

わたしたちは神さまから言葉を使うことを許されています。だから神さまからいただいた言葉を大切に使いましょう。

世界には悲惨な戦争がくり返されています。お互いの意見の食い違いから争いごとや戦いが起こります。

武器がなくても言葉によって心が傷つくことがあります。知らず知らずに人を傷つけることがあります。言葉はときには凶器になるのですね。物で傷つけられたら血がでますが、言葉の凶器は心、魂に直接きます。心を傷つけてしまうのです。そして見た目では分からないのでどンドンと溜り、爆発すると物を使って誰かを傷つけたり、自ら命を絶ってしまうこともある恐ろしいものです。

逆に良い言葉を使うと？

良い言葉は人に幸せと平和をもたらします。相手を思いやる言葉は相手を安心させ幸せ

な気持ちにさせます。相手に好意を持つ気持ちが伝わり、自分も幸せになることができるのです。いい言葉を使うことが出来る人は、いい子、だから人気者。みんながいい言葉を使うとお父さんやお母さん、家族、友達と仲良く暮らすことができるのです。

言葉は神さまから与えられた便利なものですが一つ間違えたら本当に怖いものになります。神さまは悪いことに使うためにわたしたちに言葉を使うことを許してくれたのでしょうか？そうじゃなくて神さまは私たちがともに理解し合って仲良くなるために言葉というものを与えて下さったのです。夏期学級で学んだことを学校の友達にも教えてあげてね。

◆ 良い言葉、きれいな言葉を使う（善言美詞）

【質問】「ありがとう」…他にはどんな良い言葉がありますか？ [書き出していく]

良い言葉を使うとその声自分の耳にも入っていき自分の心にも良い。

決して、汚い言葉を使ってははいけません。それは全部自分に跳ね返ってきます。

不平不満、悪口、否定的な言葉を使わない。「できない」ではなく「できる」、「やってみよう」に。日本では古来から言葉は「言霊」といって大切に扱われてきました。

言葉には力がある霊があると大切にされてきたのですね。

言葉の波動⇒水や植物にも影響

「善言美詞」とは善い言葉、美しい言葉のこと

「悪言暴語」とは悪い言葉、汚い言葉のこと

逆に「悪言暴語」という言葉があります。これは「善言美詞」とは全く逆で、汚い言葉や悪い言葉です。具体的には「恨み、妬み、誹り、偽り、怒り」。

恨み→あいつのせいで先生に怒られた

妬み→自分より運動ができないのに、勉強ができないのに、絵が下手なのに、先生に褒められた。本当は自分のほうがもっとできるのに。あいつは嫌なやつだ。

誹り→人の悪口をいうこと。非難（人の欠点や失敗を言って責めること）

偽り→嘘をつくこと

この「悪言暴語」の言葉は神さまが悲しむ言葉です。この言葉を使うと自分がイライラし、不幸が不幸を呼び、とても不幸せ、楽しくない日々を送ることになります。なぜなら言葉は全て自分にはね返ってくるものだからです。

逆に、不幸にならないツキ（幸せ）を呼ぶ魔法の言葉、それが「善言美詞」です。

—ありがとうございます。ごめんなさい。よろしくお願ひします。きれいですね。おいしいです・・・。

素直な気持ちの言葉、悪意のない好意的な言葉、思いやりの言葉、人を喜ばせる言葉（褒める）

いい言葉「善言美詞」を使う人にはたくさんの人が集まってきます。

悪い言葉「悪言暴語」を使う人には人は近寄りたくなくなっていくます。

みなさんはどっちの人と友達になりたいですか？

人が嫌がる言葉や傷つける言葉は言わないようにしましょう。

「ありがとう」や友達やお家の人に喜んでもらえる言葉をいっぱい使えられるようにしましょうね。言葉はすべて自分に返ってくるものです。天国では「善言美詞」しか使われていないようです。なので、「善言美詞」をいっぱい使うことで天国的な気持ちになることができるのです。

言葉は何回使っても、減ることはありません。使えば使うほどみんなに喜ばれ自分を含めまわりのみんなを幸せにすることができるのです。

心のなかで思っているだけではだめです。言葉として相手にしっかりと伝えることが大切です。特に「ありがとうございます」という言葉はどんどん言ってください。

◆「もったいない」と「いただきます」

「もったいない」という言葉は日本独特の言葉です。

この「もったいない」という日本語を世界共通語にしたいと言った人がいました。日本人ではありません。故ワングリ・マータイさん（ケニア副環境大臣・アフリカの女性で初めてノーベル平和賞を受賞）と言う人です。

「もったいない」= 3R Reduce 減らす Reuse 再利用 Recycle 節約、再生

3Rを一言で「もったいない」。

昔から日本にはこの「もったいない」という精神的な伝統がありました。物を大切に作る心であったり、天の恩を大切に使うこと。このことを当たり前のように思って生活していたのです。しかし、今はどうでしょうか？「もったいない」と思っていますか？もう一度見直してみることが大事なのです。

「いただきます」の意味

「いただきます」という言葉も大事な言葉です。

「いただきます」。もちろんご飯をいただくからいただきます。

しかし、「いただく」という意味にはもっと深い意味があります。食べ物の「命」をいただく、という意味なのです。わたしたちが生きていくためには、野菜や果物の命、牛や豚や鳥や魚などの命をいただいているということなのです。なので感謝をしていただかなければなりません。好き嫌いを減らして残さず食べること。そして、感謝をすること。それが、わたしたちができることなのです。そういった気持ちを込めて、

手をあわせて、「いただきます」とするのです。もちろん、ご飯を毎日作ってくれるお家の人にも感謝をしましょうね。

◆「できない」ではなく「できる」と思う

「やってみよう！」前向きに思う気持ち

言葉の力「できる」と口にだしていくと、元気になる、頑張ろうという気持ちになる。現実のものとなる。

みなさんは夏期学級でたくさんのお恩を学びました。日々の生活の恵みをたくさん感じて下さい。そして、その恩を感じることができたら「ありがとう」という言葉で感謝してください。目上の方には「ありがとうございました」と丁寧に。この夏期学級でたくさんつかいましょう。夏期学級で言えなければ家に帰ってからも学校や家では言えません。

「ありがとう」を言える心に

「ありがとう」という言葉をいつも使っているとそこには幸せがやってきます。腹が立っているとき、怒っているときには「ありがとう」とはいえません。怒っているときの心は怒りの心つまり、悪い心です。自分の心がいま悪い心に支配されているかどうか。神さまの心なら「ありがとう」と素直に言えるはずです。

常に神さまの心であるか、「ありがとう」と言える心であるか自分の心をのぞいて下さい。「ありがとう」を言える人は幸せな人生を送ることができます。

反省する心

心を見つめ直そう。一日や出来事を振り返る。いじわるな心じゃなかったかな？ウソはついてないかな？わがままじゃなかったかな？自分だけよければ良いと思っていないかな？

悔むことはありません。

みんな神の子（神の宮）だから、それが分かる。他人も大切にできる。

不平不満を決して言わないこと

カテゴリ 4

神さまのこと

2016/04/16

大本青年部 作成

| | |
|--------------------------|----|
| 神さまのこと | 1 |
| ◆神さまは隠身..... | 1 |
| ◆【三大学則】 | 1 |
| ◆たくさんの自然..... | 4 |
| ◆人は神の子、神の宮（みんないい子） | 4 |
| ◆生命の不思議..... | 5 |
| ◆命の大切さ | 6 |
| ◆脳死は人の死ではない | 7 |
| ◆【一霊四魂と五情の戒律】 | 10 |
| 霊について..... | 12 |
| ◆死後の世界 | 12 |
| ◆目に見えない世界 | 13 |
| ◆霊界と現界の関係 | 14 |
| ◆人の心に影響する自分の心..... | 15 |

神さまのこと

神さまを想像してみようー神さまは目に見えないご存在

(想像して書いてみる)

- ・見たことがある人 手を挙げて
- ・どんな顔をされているのだろう
- ・神さまってどこにいらっしゃるのかな? 上かな? 下かな?

神さまは目には見えません。じゃあ、ほんとうに目に見えないからっていないのでしょうか?

目に見えないものは、いっぱいあります。

- ・テレビのリモコン 電子レンジ 携帯の電波 微生物 他にも…

◆ 神さまは隠身

神 (カミ) ⇔ 隠身 (カクレミ)

「神は霊であるから、人の眼には見えぬが当然である。隠身であるから人の眼には隠れて見ることができぬ。神の尊きは人の眼にて見ることを能 (あた) わぬがゆえである (道の葉) 」

神さまは目に見えず、手に触れることもできません。耳で聞くことも鼻でかぐこともできません。それが神さまであります。だからこそ、神さまは尊いのです。

神さまはみんなの見えない所で必ず見守ってくださっています。

だから、悪いことはこそこそ隠れてしてはいけません。神さまはすべてお見通しです。

神さまは目には見えませんが感じることはできます。心で感じることはできます。

◆ 【三大学則】

「天地の真象を観察して真神の体を思考すべし」

一本の花があったとします。とってもきれいで美しい。いい香りのする花です。これを造ることはできますか? できません。わたしたちができるのはせいぜい花を育てることができるくらいです。木や石、山や森、美しい自然をみればみるほど目の周りにはわたしたちが作り出せないもので満ち溢れています。わたしたちは神さまからいただいた天地の恵みがあるからこそ生きていくことができるのです。天地の恵みに感謝することを忘れてはなりません。

みなさんの家族をよく見てください。子が親に似る。兄弟同士が似ている。当たり前の

このようですが、よく考えると不思議なことです。生き物には遺伝子というものがあり、いわゆる生命体の設計図が組み込まれていてその命令によって性格や癖にいたるまですべてのことが入力されているのだそうです。このプログラムは人間が作り出すことが出来ない高度で複雑なものだそうです。しかも一人として同じプログラムをもっている人はいないそうです。人それぞれ顔やかたちが違い、性格が違い、考え方が違うのもそのためです。

同じ大地に蒔かれたスイカと唐辛子の種が同じように水しかやらなくてもやがて一方は甘いスイカを、一方は辛いトウガラシを实らせる。当たり前ようですが、不思議なことです。この種ももちろん人間が生み出したものではありません。天地の恵みです。世の中を観察すればするほど神秘と奇跡に満ち溢れているのです。

「天地（あめつち）のまことの象（さま）を
察（あき）らめてまことの神の体（からたま）を知れ」聖師さま

「万有の運化の毫差なきを視て真神の力を思考すべし」

時計は便利なものです。時計は人間が発明した便利なもののひとつです。時計があるおかげで夏期学級のプログラムも時間を守って行うことができます。学校へ行くのにも、友達と待ち合わせすることができるのも、決まった時間に好きなテレビ番組を見ることができるのも時計があるおかげですね。

しかし、時計は人間が作ったものでいつかは壊れるし電池がなくなれば止まります。

地球は太陽を中心として一年（365日と6時間）をかけて一周します。これが狂うことはありません。みなさんは地球が誕生してどれくらい経っているか知っていますか？約46億年と言われています。46億年もの間、極めて正確に太陽の周りを回り続けているのです。

そのおかげで、毎年、春、秋、夏、冬の季節が訪れ、住みやすい地球を生み、天地の恵みをいただくことができます。

もし、これがちょっとでも狂ったら大変なことになります。異常気象をもたらす地球が凍ってしまったたり、燃え尽きてしまうこともあるかもしれません。つまり生命が生きていくことはできません。

このように奇跡の連続があるおかげで、私たちは今当たり前のように生きていくことができます。これをあたりまえとってははいけません。

時計は狂ってしまうことがありますが、地球の公転や自転は狂うことなく止まることなく、正確に動き続けています。これは神様のお力ということもできます。

「ものみな運化（めぐりうつり）のくるはぬは まことの神の力なりけり」聖師さま
宇宙の本源は活動力にして即ち神なり（霊界物語 第67巻）

「活物の心性を覚悟して真神の靈魂を思考すべし」

みなさんの心は神さまから与えていただいたものです。

たとえば「愛」という心。

みなさんは生まれたとき、赤ちゃんのとき、お母さんのお乳やミルクをもらったりしました。これは子供がかわいいからです。お母さんやお父さんは小さな赤ちゃんに見返りをもとめてはいません。子を愛するという親の心は人間に限らず生き物すべてに共通しています。

卵を懸命に温める鳥のお母さん、まわりから危険がないか見守るお父さん鳥。敵が近づいてきたら、自分より大きな相手でも果敢に向かっています。どんな動物も人間と同じように親は子供を守り育てます。

みなさんはお父さんやお母さんに育ててもらって大きくなりました。お家の人が、ご飯をつくってくれたり、働いてくれているからこそみなさんは元気に学校に行くことができます。毎日、ご飯をつくるのも、仕事に行ったりするのも大変なことです。でも、みなさんがかわいいから育ててくれるのです。これは人間が「愛」という心を神さまから授かっているからなのです。神さまが天地の恵みを与え、人間を生きさせてくださっています。

これが神さまの「愛」です。その心は生まれた時、もうすでにいただいているのです。

この心を成長させ発展させていくことが大切です。

みんな神さまに守られて生きているということを忘れないでください。

また「愛」の心のほかにも、「生きたい」という心も自然と備わっています。車にひかれそうになったら逃げます。水におぼれそうになった人はワラをもつかむといわれています。「生きたい」という思いがあるからこそ、人は危険から身を守り、命を大事にしようと思うのです。お腹が空いたらご飯を食べたくなるのもそのためです。「生きたい」という思いがなかったらいったいどんな世界になってしまうのでしょうか？人間は今のように長く生きることはできません。命を大切にしない社会になってしまいます。

「活物（いきもの）の心性（さが）のはたらき察（あき）らめて
まことの神の靈魂（たましひ）を知る」聖師さま

◆たくさんの自然

森 植物 川 水 空気

地球を完成させるために、元の親神様から12の神さまを息吹で生み出しました。それぞれの12の神さまにはお役があります。しかし、植物や動物はねぎのように柔らかく、ふにゃふにゃでした。そこで神様はご自身の胸の骨を1本抜きとり歯でコナゴナに噛み砕き四方にばら撒きました。そのおかげで柔らかかった動植物はその骨の粉末を吸収して固くなることができました。五穀も実るようになり人間や動物も立って歩くことが出来るようになりました。骨の粉末がこびりついたところはそれぞれ岩石や鉱物となります。

また、水のなかった地球に雨を降らしたり、太陽の熱を放射したり・・・

【霊界物語第1巻21章 大地の修理固成 参照】

神さまは人類をはじめ動物、植物等をつくられました。人間には神さまの心を与えられます。体は神さまの御意志を実行するために与えられました。

これが人生の目的であり、生きる意味です。

「神は万物普遍の霊にして、人は天地経綸の大司宰なり

神人合一してここに無限の権力を発揮す」（大本教旨）

「霊止（ヒト）」

ヒト→ ヒ（火、日、霊） ト（止まる、止まる場所）

神様の宿というのがヒトという言葉の中にふくまれている。

私たちは神さまから生かされているということ

空気がないと私たちは生きていけない。水がないと私たちは生きていけない。

食べ物、飲み物、これがなくては生きていけない。

◆人は神の子、神の宮（みんないい子）

神さまは目に見えない。私たちの心のなかにも存在する…人は神の子、神の宮

神さまが喜ばれること—それは「善いこと」をすることです

善いことはたくさんあります。あいさつや履き物の始末…ゴミを拾う、掃除をする、お手伝いをする、小さい子のお世話をする、友達に親切にする、「ありがとう」などのいい

言葉をつかう…などできることはたくさんありますよね。

感謝ができればいいことがもっともっとできるようになります。

この夏期学級で神さまの恩をたくさん感じて、感謝の気持ちでお礼拝すれば神さまは喜んでくださいます。

◆生命の不思議

【質問】心がない人？ 心はどこにある??

人間には神さまから目に見えない心（魂）を与えられています。なので、わたしたちができることはそのいただいた心と体に感謝をもって大事にして、それをよりよく向上させていただくということが人生において大事なわけです。

神さまのお造りになった身体

わたしたちはなぜ「神さまの子」なのか？

それは神さまの心（魂）と神さまがお造りになった体をいただいているからなのです。神さまから命をいただいて誕生したのです。

わたしたちの体は60兆の細胞からできています。その細胞が互いにみごとに調和して働いてくれるからこそ呼吸することも見ることも話すことも食べることもできます。この調和が崩れたらいくら頑張っても一口のご飯さえまならない。それに酸素がなくては一刻も生きておれない。それほど大切な空気をいただいておりながらありがたいということさえ忘れてしているのです。

昼にみんなでご飯を食べました。わたしたちが今こうしている間も胃袋は今日食べた昼ごはんを消化するために一生懸命働いています。これは食べ物の栄養を体に吸収するためです。

心臓を止めることはできますか？心臓は止めることはできません。止めたら死んでしまうからです。たった数秒間でも心臓が動かすこと怠ってしまったら生命の危険にさらされる。

心臓や肺臓をはじめ体のあらゆる器官がその生命（私たち）を維持するために生かそう生かそうと一瞬たりとも休むことなく働き続けているのです。だから、みなさん、自分の体に感謝してください。いつも生かさせてくれてありがとう。いたわってあげてくださいね。

時計は、人が作ったもの。人間は、神が作ったもの。

人間は、生物を育てることはできても、作りだすことはできない。

ある科学者は、「全世界のお金と、全世界から優秀な科学者を集めても、大腸菌一つ

作ることはできない。」とっています。人は生かされています。

出口日出庵尊師さま著『生きがいの探求』より

「では、自分を造ったものは何か？父母か？いや、そうではない。もし父母が自分を造ったのなら、父母は造ることを最初に意識して造ったのか。けっしてそうではない。これこれのものを、このようにして造ろうと、どれだけ考え、どれだけ設計したでしょうか。要するに、父母もまた自分を造ったのではなくて、造らせられているまでだ。それならば、父母をして自分を造らせたいものは何か？父母の父母でも、そのまた父母でもない。やはり分からない。ここにおいて、はじめて人間を自由自在に駆使しているあるものが在ることに気がつく。これが神霊である」

病気にたいして

病気になったとき、熱が出ます。

熱がでるのは菌を殺すために熱がでるのです。

みなさんの体が悪い菌を発見して、闘ってくれているのです。

みなさんは風邪をひいたり、熱がでたりした時に、体にこの菌を「やっつけろっ！」で命令したりしますか？しませんよね。菌がはいってきたことすら分からないけど、体を守るために菌をやっつけてくれているのです。おなかが痛くなるのも、悪い物を外に出すためなんです。そう考えると体って不思議だと思いませんか。よくできたものです。

他にも、例えば転んで足を擦りむいたら血がでてきます。その血が自然と固まってかさぶたとなり傷口をふさいでくれます。そして、気がついたら治っているというのも不思議ですね。

◆命の大切さ

自分の命は神さまから与えていただいたもの
だから、自分の体は神さまから預かっているもの
人は「生きている」のではなく生かされている

人は自分たちだけで生きているようですが、神さまに生かされているのです。
眠って意識がない間も、心臓は動いているし呼吸もしている。

自殺（自死）について

神さまは私たちに命を与えてくださいました。

私たちはなぜこの世に生れて来たか。それは意味があるからです。

一人一人に意味がある、つまり私たち一人一人に神さまからの役目が与えられているのです。

命を大切にすることとは、自分ができることを精一杯し、人のために何かをすることです。それが、神さまがたいへんお喜びになられることなのです。

日本には（世界には）自殺で、亡くなる人もいます。

大切な命を粗末にははいけません。自殺すればまわりの人たち（親、兄弟、親戚、友達…）は、悲しみます。辛い思いをさせてしまいます。その悲しみや辛さは一生続きます。自分だけの命ではないのです。もちろん生きてると、辛いことや悲しいことはいっぱいあります。でも神さまは私たちをお守りくださっています。そのことだけはぜったいに忘れないでください。

どうしても辛くてどうしようもないことがあったら逃げてください。

決して、自分を責めないでください。とにかく生きることです。

神さまを信じて生きていけば、必ずいいことがあります。辛いこと、悲しいことばかりではないはずです。嬉しいこと楽しいこともあります。みんなも周りの友達が困っていたら助けてあげましょう。温かい言葉を一言かけるだけでも救われることはたくさんあるのです。

病気で学校に行けない子もいます。外で遊びたいのに遊ぶことができない子もいます。生きたくても生きられない子もたくさんいます。

私たちは神さまから与えられた命を大切にしましょう。

それが神さまとの約束です。

◆脳死は人の死ではない

脳の機能が停止したことを「脳死」といいます。

でも、脳死になっても心臓は動いています。

心臓が動いているということは呼吸をしているということです。

心臓が動くうちは、霊（魂・心）が体にあり、ほんとうは死んではないのです。なので、「脳死は人の死ではありません」。

脳死になっても身体は温かいし髪の毛は伸びます、爪も伸びます、汗もかきます。脳死状態の妊婦から、赤ちゃんが産まれたという例もあります。自動呼吸器をつけたまま、数年も生きた子もいます。それは、ほんとうに死んだといえるのでしょうか。

言葉を話すことはできませんが、まだ魂（心）は残っているので意識はあるのです。では、なぜ脳死を「人の死」と決めてしまうのでしょうか。

それは、臓器提供をしやすくするため。心臓が止まってからの臓器提供はほとんどできません。その臓器提供をしやすくするために「脳死」を人の死と決めようとしているのです。臓器提供は愛の行為だと宣伝していますが、それは間違っています。

臓器提供は誰かの死によって成り立つ医療です。人の死の上に成り立った医療が愛の行為といえるのでしょうか。「脳死」になった人を助ける処置をすぐに打ち切る可能性もあるのです。

わたしたちの体は神様からの借りものです。自分だけのものと思ってしまうがちですが、自分のものではありません。勝手に臓器を人にあげることは神さまはお許しになってはいません。

生きること、死ぬことはすべて神さまが決めます。人が決めることはできないこと。

脳死は人の死ではありません。脳死状態での臓器提供反対の意思をしっかりと示していくことが大事です。絶対同意してはいけません。

中村有里ちゃんの話

歌う事が大好きな有里ちゃんはまだ2歳8か月でした。

2005年12月（2歳8か月）のある日、朝から38度弱の熱があり、病院へ行くと「今はやっている風邪だろう」とお医者さんに言われ家に帰り様子を見ることにしました。ぐったりすることもなく夕方、ウトウトと眠りました。

眠って30分ほどすると、うめき声とともに突然痙攣けいれんが起こったのです。救急車で病院へ運ばれました。

ところが、なかなか痙攣が止まらず、目を開けることも、声を出す事、自分で息をすることができなくなりました。頭の脳が機能しなくなる状態の「脳死」と判断されました。自分では呼吸が出来ませんが、人工呼吸器という機械を口につけて空気を取り入れることが出来ます。ずっと眠っているように見えます。

しばらくして有里ちゃんの状態が日に日に悪くなっていき、心臓の力（血圧）がどんどん下がり、やがて止まりそうな状態に近づきました。お医者さんではどうにもできなくなりました。

有里ちゃんには3人のお兄ちゃんがいて、病院の部屋へお見舞いに来て、手を握りながら「有里、お兄ちゃんだよ！頑張れ！元気になって早くお家へ帰ろうね！」と、語り続けました。すると下がり続けていた血圧が、少しずつ上がりはじめた。

その時のお医者さんは、「家族の深い愛を感じた。医学では証明できないことが起こった」と言われたそうです。

お兄ちゃんの声が有里ちゃんの意識に届いたのでしょう。言葉に出す等の表現ができないのかもしれませんが声は聞こえているかもしれないのです。

それから、有里ちゃんは、1年9カ月を生き、2007年9月に心臓が止まって亡くなりました。

人の死とは？—有里ちゃんのお母さんの思い

私は（有里ちゃんのお母さん）、人が生死のはざまに置かれ、旅立っていく瞬間を看取ったのはこれが初めてでした。ぬくもりのある体から、徐々に冷たくなっていく体の変化を見た時、これがまさに「人の死」なのだ実感しました。

そしてもうひとつ私の中で確実に変わったのは、脳死と宣告されてからの一年九か月間、娘は確かに生きていた、という事実です。

私のこの両手が、あたたかい娘の体と、そして冷たくなってしまった娘の体を覚えています。まだその重みを感じています。だからこそ、「脳死は死である」とは私には言えません。

人の死は、心臓が止まり、体が冷たくなってはじめて、認められるものなのではないでしょうか。だからこそ、死として受け入れられるのではないのでしょうか。一年九か月の間、私は一度も娘が死んでいると感じたことはありませんでした。死んでいると思うには、かなり無理があります。天国へ旅立ち、「ご臨終です」と告げられ、その時はじめて遺体となるのです。

脳死は死亡宣告ではなく、大きな病気の名前を告げられたのと同じです。死という文字が使われるから、余計に混乱するのではないのでしょうか。

肝臓が機能しなければ、肝不全、腎臓が機能しなければ腎不全などと言われます。けれど、誰も肝死とも、腎死とも言いません。なのにどうして脳だけは脳死と言われるのでしょうか。なぜ脳不全と言わないのでしょうか。

ある日突然、脳だけが「ボッカン！」とやられただけで、他の機能はきちんと働いてくれます。呼吸器の力を借りても、きちんと生きていられるのです。

それとも、機械をつけた者には生きる資格はないのでしょうか。心臓のペースメーカーだって、人工透析だって、機械の力を借りています。そうやって、みんな生をまっとうしているのです。意識がないからといって、生きる資格がないのでしょうか。生きていくことに、善悪の基準があるのでしょうか。統計的だの、医学的だのという言葉はたくさん耳にしますが、それは誰の、何のためなのでしょう。私には、よくわかりません。

【「長期脳死 娘、有里と生きた一年九か月」中村暁美 著】

◆【一霊四魂と五情の戒律】

ちよく れい なおひ みたま 直 霊 (直日の霊)

人はだれでも個性といって人と違った性格を持っています。音楽が好きな人もいれば国語が好きな人もいます。勉強より運動のほうが好きな子もいます。人それぞれです。

しかし、神さまは自分の努力でこの個性を伸ばしていける力を与えてくださっています。そして、正しいほうへ、正しいほうへと導いておられます。それでも神さまをはなれ個性を伸ばすことをやめてしまうと悪い方へいくこともあります。神さまからいただいた心(魂)を発揮すれば希望と喜びをもつことができるのです。

ダイヤモンドは磨かなければ輝くことはできません。

心も同じように磨かなければ輝くことができないのです。

神さまからいただいた清らかな心(魂)それを「直霊(ちよくれい)」「(直日の霊)」と呼んでいます。

この神さまからいただいた心を磨くためには四つの魂(荒魂、和魂、幸魂、親魂)の働きが必要です。

荒魂「勇」

何があってもあきらめない気持ちや目標に向かってやり遂げようとする気持ち。常に向上していこうという気持ちがあるのは「勇」の心があるからです。

【争魂(そうこん)】

でも、この「勇」の心が自分のことばかりを考えて、人のことを考えることができなくなったり、思いやりの心が持てなくなってしまうと「争」という悪い心になってしまいます。そうすると、人とケンカしたり、争いを生むことになってしまうのです。

【恥じる】

そうならないためには「恥ずかしい」という心が必要です。

人と争うことを恥ずかしいと思う気持ちがあれば、「勇」が正しく発揮されます。

和魂「親」

みんなと仲良くしたい。友達ともっと親しくなりたいという気持ちです。そういった平和な心、和合する心を「親」といいます。

【悪魂(あくこん)】

しかし、わがままな考えや行動をしてしまうと「悪」の心になります。人を憎んだり、人の悪口や陰口をいってしまうのはすべて「親」の心が「悪」の心になってしまう怖いことなのです。

【悔いる】

そんなときは「悔いる」気持ちが大切です。みんなと親しく仲良くなるためには、自分の悪いところも直さなければなりません。人のせいにしても何も変わりません。人を嫌いになって、悪口や陰口を言ってしまったらハッと思い直し「悔いる」気持ちをもつことが大切です。

幸魂「愛」

「愛」の心です。家族を愛する心。植物や動物を愛する心です。

【逆魂（ぎゃくこん）】

この「愛」の働きが乏しくなってくると、物を平気でこわしたり、意味もなく植物をぬいたり、木を折ったり、動物をいじめたり、人をいじめたりしてしまいます。また人の話を素直に聞けないとか、逆らったり人と対立してしまうのは「愛」の心が不足しているのが原因です。

【畏れる】

「愛」の心を持つためには、「畏れる」心が大切です。お父さんやお母さん、友達でもかまいません。敬う気持ち、尊敬する気持ちがあれば「愛」の心が育ちます。

奇魂「智」

「智」という心はものごとを正しく悟る、おぼえる、真理をつかむということです。

【狂魂】

自分がよければ他はどうでもいいという気持ちがあると悪い考え方や間違った道にいつてしまいます。正しい考え方や教えを狂わせると知らず知らずに悪い道みちびかれてしまうのです。

【覚る】

「なるほど自分が間違っていた」と覚ることによって、迷いがなくなります。そして、正しい道を見つけ、正しい考え方を身につけることができるようになるのです。

「省みる」

すべてに依ることは、自分のことばかりを考えるのではなく他に思いやりがないといけません。

そして、最も大事なことは「省みる」ことです。反省するということです。

四魂にはそれぞれ、「恥じる」「悔いる」「畏れる」「覚る」という心が大事ですがそれらはいずれも「省みる」という働きから発しています。

せっかく神さまからいただいた清らかな心を正しくつかうように心がけ努力することが大事なのです。人間の魂は悪い心が起こっても正しい心にする力が備わっているので向上していけるわけなのです。神さまの力をいただくことが大切です。

霊について

◆ 死後の世界

人は死んだらどうなるの？

心がある人？心を持っていない人？じゃあどこにあるのかな？

見せてください？見えませんよね？

人間の心は目で見ることではできません。

でもたしかに人間は心をもっているとだれもがそう思っています。ドキドキすることや、優しい気持ち、楽しい気持ちや、嬉しい気持ち、また怒りや悲しい気持ちもすべて心の働きということがいえると思います。

この心を「霊」（靈魂）と呼ぶこともあります。

この目に見えない心、靈魂の働きが言葉、動作、行動に表れます。

だからこそ心を大切にします。このことはとても大切なことなのです。

人間だけではなくありません。動物にも霊の働きがあり、それによって命を保っています。植物もそうです。

生きているときは霊と体はいっしょなのです。心臓が止まると呼吸がとまって死んでしまおうと霊と肉体は離れてしまいます。霊は宙に浮きあがり、霊界というところに行くのです。

体はだんだんと衰えてなくなってしまいますが、その霊がなくなることはありません。

「霊界」一わかりやすく言うと天国と地獄ですね。

【中有界】

ほとんどの霊は天国や地獄に行く前に「中有界」というところに行きます。

そこで、天国に行くのか、地獄に行くのかがここで決定します。

外分の情態

顔や形、性格や言葉もいままでと同じ状態

今まで通り本心を隠している状態

内分の情態

内分の情態になると顔はかわってきます。いままでの心のあり方によって変わってくるのです。心がきれいな人は美しくなりますし、心が汚い人は醜い顔になってしまうのです。心が隠せない情態になってくるのでごまかしもききません。

準備の情態

準備の情態では天国（天界）行きとなった精霊は天国に行く準備をします。天国に行く前に天国のことを勉強するのです。

【天界・神界】

天国はひとつではありません。大きくわけて三つに分かれています。第一天国、第二天国、第三天国です。天国では年をとることもありません。男性は 30 歳、女性は 20 歳くらいの容貌になります。天国は遊んで暮らすイメージがありますが違います。もちろん遊ぶこともあります、仕事もちょうどあります。天職を与えられるので能力を発揮し、どの天人も公共のために尽くす喜びをもってしています。嫌がってやっている天人は一人もいません。

天国は光輝いています。第一天国は現界の太陽と比べると 7 倍、第二天国では 5 倍、第三天国で二倍の輝きがあるといわれています。

◆目に見えない世界

植物の気持ち

花を同じ花瓶に挿して、同じ条件、日の当り方、水の種類すべて同じにします。

1つの花には、「今日もありがとう、きれいだよ。一日でも長く咲いて、私を楽しませてね。」と声をかけます。

もう1つには、「きたない！早く枯れてしまえ」と。毎日声をかけます。

そうすると、「今日もありがとう、きれいだよ」と声をかけていたほうは、長持ちします。

もう1つの「早く枯れてしまえ」と声をかけた方は、早くかれてしまいます。

この実験からも分かるように、植物にも感情があるのです。

なぜ、このようなことが起こるのでしょうか？

それは、植物も生きていて、「心」があるからです。植物にも動物にも人間と同じように「心」があります。それを大本では「霊」と呼んで言います。幽霊とはちがいます。

この世には、目に見える物（体、物）と見えないものがあります。

例えば、声・気持ち・・・。

その中に、「力」というものがあります。物質の一番小さいのを原子といいます。

しかし、その原子がどのようにしたら動くのか、これは、まだ人類の科学では分かっていません。しかし、この動かす力の源こそが「霊」なのです。

目に見える物と見えないものが合わさって、生きているということなのです。

人間は、体と霊が合わさって生きています。体の中に「霊」が入っているから動いているのです。霊が抜けたら動かなくなる。これが「死」です。

◆ 霊界と現界の関係

『地上の道路のうえ三尺は、霊界の道路なり。現界の畳のうえ三尺は、霊界の畳なり。』

（出口日出磨尊師さま お示し）

霊だけの世界を霊界、目に見える物と見えないものが両方一緒にあるのを現界といいます。では、霊界はどこにあるのでしょうか？

霊界と言うのは死んだ人だけがいるような世界ではなく、いつも私たちの生活の傍にあり、常に影響しています。霊界にいる人たちは、毎日遊んでいるのではなく、わたしたちと同じように働いているのです。

霊には、波動となって、いろんなものに影響を与えます。つまり、霊界で起こった事は、そのまま現界にもおこります。

（例え話）一火事の予知をするネズミー

ネズミは、火事の三日くらい前に、霊界で火事が起こったその波動をキャッチして、他のところへ移動したという話もあるそうです。

◆人の心に影響する自分の心

明るい気持ちと暗い気持ち

霊は常に波動を出しています。

例えば、植物に火をつけようとするとき人間の「火をつけてやろう！！」という、霊の波動が、植物の霊に伝わります。

霊とは心と言うこともできます。つまり、なんとなく楽しい気持ちの時は、その波動が出ています。反対にイライラした気持ちの時にはその波動が出ていて、他の人の霊、心に影響を与えているのです。

気持ちは必ず通じる、そのことを実験した人がいます。

美しいもの、良いものを見たり聞いたりすると、その人の霊に影響して心が楽しくなったり嬉しくなったりします。反対に、他人を悪くいたり、憎むようなことを聞いたり言ったりすると悪い霊に影響されてしまいます。

カテゴリ 5

大本のお話

2016/04/16

大本青年部 作成

| | |
|-----------------------------|----|
| 三代教主さまのお言葉..... | 1 |
| 生活信条（出口日出麿尊師さまのお言葉）..... | 1 |
| 大本のはじまり..... | 2 |
| 教御祖さまのご神業（大本の歴史）..... | 3 |
| ◆ 出口なお開祖さま..... | 3 |
| ◆ 出口王仁三郎聖師さま..... | 3 |
| ◆ 出口すみこ二代教主さま..... | 3 |
| ◆ 出口直日三代教主さま..... | 4 |
| ◆ 出口日出麿尊師さま..... | 4 |
| ◆ 出口聖子四代教主さま..... | 4 |
| ◆ 出口紅教主さま..... | 4 |
| ◆ 神定について（神さまがお決めになること）..... | 5 |
| 平和のころ（みろくの世）..... | 5 |
| ◆ なくならない戦争と世界の貧困..... | 5 |
| ◆ みろくの世のために..... | 6 |
| ◆ 身近にできる平和活動..... | 7 |
| | |
| （一般向け）大本の概要..... | 10 |

三代教主さまのお言葉

- ◆すなおであること
- ◆はきものも始末をよくすることだけではなく、自分のあとしまつを人がみていなくてもしてください。
- ◆相手の立場にもなってみること。
- ◆自分だけが正しいのではない。
- ◆お互いはいつもかわりない心で人に好かれる存在であること。
- ◆明るくて、気持ちの良い仲間の集団であること。
- ◆すこやかな心と体をもちましょう。
- ◆光陰を惜しんで何ごとにも精一杯はげむこと。
- ◆日本の国に生まれた幸せをよく考えてみることに。
- ◆礼儀を正しくすることは、自他ともにしあわせなのです。
- ◆天のご恩、地のご恩、父母のご恩、もろびとの恩を思うこと。

生活信条（出口日出庵尊師さまのお言葉）

- 一、物事を決して悔やまぬこと
- 一、言いわけを決してなさらぬこと
- 一、絶えず真剣な努力をなさること
- 一、頼まれなくても親切のありったけを尽くされること
- 一、ご自身の功名手柄を決して自家広告なさらぬこと
- 一、偉そうな振りを決してなさらぬこと
- 一、物に執着のないこと

大本のはじまり

大本はいつできたの？

明治25年2月3日節分の夜（旧正月）です。

出口なお開祖さまが57歳の時に突然、神さまがかかりました。

開祖さまは、あたたかい光に包まれたような感覚になったそうです。そして、目には見えない大きな玉のような物が口から入ったそうです。今度はそれが、口から飛び出しそうになり大きな声で叫びたくなるような感覚になりました。開祖さまは、必死になってこらえようとされますが、とうとうこらえることができなくなり大きな声で叫んでしまいました。

その声はいつもの開祖さまの優しい声ではなく、太い男の声で『わしは良の金神であるぞよ』と言われます。そして次々、思いもよらない言葉が出てくるようになります。

それは、やがて半紙に筆で書かれるようになりました（お筆先）。

開祖さまは貧しくて学校で学ばませんでしたので文字を書くことができませんでした。しかし、筆を持つと不思議と手が勝手に動きだし、神さまの言葉を書くことができました。

開祖さまにかかれた神さま（良の金神）は、実は、国常立尊というとても偉い神さまだということが、後で分かります。国常立尊は神代の昔（神さまの時代）、この地球を造り、そして治めていた神さまだったのです（親神）。しかし悪い神々によって永い永い年月の間、良（北東）の方向に押し込められてしまいました。しかし、国常立尊は、蔭からこの世を、そして人類を守ってくれていたのです。ずっと、ご守護くださっていたのです。

では、なぜ国常立尊という神さまは、開祖さまにかかり再びこの世にあらわれたのでしょうか？それは、この世界の「立替え立て直し」をするためです。

「立替え立直し」とは心を立替え立直すという意味です。（改心）

つまり、「われよし（自分がよければ人はどうなってもいいという身勝手な心）」、「強いもの勝ち（強いものが力づくで）」など、人間の強い欲をなくし心を改めることを神さまは願われています。それができないことには世界は平和にはなりません。すべての人が幸せになることもできません。

神さまはすべての人が幸せで平和に暮らせる社会（みろくの世・地上天国）、天国のような世界をつくることを目指されております。それには、人の心の改心が必要です。

地上天国の建設（みろくの世）をするために大本ができたのです。

教御祖さまのご神業（大本の歴史）

二大教祖

◆ 出口なお開祖さま

出口なお（天保7年生まれ※1837～1918）

明治25年、57歳（数え）のときに突然、神さまが懸かられました。

当時、貧しくて読み書きができなかった開祖さまは神さまの命じられるままに筆を持つと、ひとりで手が動き、文字が書かかれていきました（自動書記）。大本ではこの書を、「お筆先（ふでさき）」と呼んでいます。そして、のちに出口王仁三郎聖師さまによって漢字があてられたのが、「大本神諭（全7巻）」です。

大本の大事な教典で、大本の教えのもととなっています。

開祖さまは常に衣食を節し、世の中の貧しい人がよりよく暮らせるように、争いのない神さまの世、地上天国が近づくように、「世の大難を小難に、小難を無難に」と一心に祈りを捧げられました。

◆ 出口王仁三郎聖師さま

出口王仁三郎（明治4年生まれ※1871～1948）

26歳のときに神さまに導かれ亀岡にある高熊山で1週間の修業をされました。1週間の修業では2月の極寒のなか肌襦袢一枚で、水1杯、ごはん1杯も口にしないきびしい修業をされました。その修業で神さまの大きな愛と教えに目覚められました。その後、開祖さまと出會われ、のちに二代教主となられる出口すみこさまとご結婚されます。聖師さまは大本を組織化し大きく発展させていられました。「霊界物語（81巻・83冊）」という大本の大事な教典も残されました。

◆ 出口すみこ二代教主さま

出口すみこ（明治16年生まれ※1883～1952）

開祖さまの末娘（5女）です。明治33年に聖師さまとご結婚なさいました。常に開祖さまと聖師さまを支えられ、開祖さまが亡くなられたあとは二代教主となられ、聖師さまとともに、大本の発展につとめられました。今日の夏期学級がはじまったのもこの二代教主さまのお言葉「大本から立派な人を世におくりだす」からです。一貫して天地のご恩の大切さを説かれています。また食事の前に唱えている「三首のお歌」も二代教主さまのお歌です。「ひのものと くにくにうまれし神の子よ よき種をまけ野にも山にも」

◆ 出口直日三代教主さま

出口直日（明治35年生まれ※1902～1990）

聖師さまと二代教主さまの長女。

茶道や短歌、能やお仕舞などの日本伝統芸術に力を注がれました。

第二次大本事件後の神苑を整備し、みろく殿、万祥殿を建設。

現在の大本の教風を築かれました。

大本が茶道を取り入れているのも三代さまの影響によるものです。

◆ 出口日出麿尊師さま

出口日出麿（明治30年生まれ※1897～1991）

尊師さまとお呼びしています。

大学生の時に大本にご入信され、昭和3年に三代教主さまとご結婚されました。

昔大本は無実の罪で2回の弾圧を受けました。その時にひどい拷問にあわれてしまわれます。しかし、その拷問に耐えられ、神仙の世界に身をおかれながらも、霊界、現界の浄化・救済（例えば悪い霊を改心させたり、救ったり）と世を清めるために全身全霊をささげられました。

「生きがいの探求、創造、確信」という本も残されています。なにか悩みがあったときなどや壁にぶち当たった時などに読むといいでしょう。とても分かりやすく学ぶことができますので、みなさんにもぜひ読んでいただきたいです。

生活信条七訓は日出麿先生がつくられました。

◆ 出口聖子四代教主さま

出口聖子（昭和10年生まれ※1935～2001）

三代様と尊師様の三女にあたります。

四代教主さまの時代に三代さまの意志を引き継がれ、今綾部にある長生殿という立派なご神殿を完成されました。これは大本ができてから神さまのお住まいどころである立派な神殿をつくることはとても大事なことでした。

◆ 出口紅教主さま

出口紅（昭和31年生まれ※1956～）

四代教主さまがお亡くなりになられ、五代教主にご就任されました。

現在の教主さまです。

平成13年4月29日、五代教主に就任。教祖、歴代教主・教主補の精神を継承して世の

中の大難を小難に、小難を無難にと祈願をし、“みろくの御世”の実現にむけて、み教えを実践されています。宗教・民族・国家の垣根を超えた平和の祈り「大本歌祭」や合同平和祈願祭を国内外で執行され、大本創生期から始まる宗際化をご発展。また、大本発祥の地・京都府綾部市梅松苑に「みろく村」を開村され、機織りや陶芸、農作業など日本の伝統文化や芸術活動にいそまれるとともに、大本一門の作品展開催を各地で推し進められ、芸術による救済にも取り組まれておられます。

◆神定について（神さまがお決めになること）

大本では教主さまは代々、女性が教主さまになることに決まっています。

これは、大本の御神書「おおもとしんゆ」に代々女性になることが書かれています。神さまが決められたということです。

平和のころ（みろくの世）

◆なくならない戦争と世界の貧困

終戦から 70 年（2015 年 8 月 15 日）。日本は平和な国になりました。

しかし世界では、いまだに戦争がいたるところで続いています。国同士の戦争、国内での争い、テロなど複雑な問題があり、平和とはほど遠い状態です。

戦後 70 年間で、戦争をしていない国はどれくらいあると思いますか？

国連加盟国 193 カ国中、戦争を行っていない国は、日本を含めたたったの 8 カ国だけです。それが、今の世界の現実なのです。

戦争だけでは、ありません。病気や飢餓の問題もあります。

みなさんは、当たり前のように学校に行くことができます。

しかし、貧しい国の子たちは、学校にいきたくても行くことができません。

みなさんは毎日、当たり前のようにご飯を食べることができます。

しかし、貧しい国の子どもたちは、食べるものがありません。

私たちは恵まれた環境にいながら、たくさんの食べ物を粗末にしています。

私たちの生活、ひとつひとつを改めていくことが大事だと思います。

食べ物に感謝をし、好き嫌いを残さず食べることを心掛けなければいけません。

今の日本は、戦争もありませんし、食べものにも困りません。
学校で、勉強もできるし、運動することもできます。将来の夢を思い描くこともできます。清潔な服を着ることもできます。薬もある、病院にもいける。爆弾が落ちてくることもありません。

それは、「当たり前」のことでしょうか？

いいえ、それは、けっして、「あたり前」のことではありません。
平和だからできるのです。まずはそのことに感謝しなくてはなりません。

これだけ「有り難い」中にいて、ちょっとあれが足りない、ちょっと思うようにならない快適でないからと言って不平不満や文句を言うてしまうことはありませんか？
そのことが、いかに恥ずかしいことかを思わなければなりません。

平和な国を実現できた日本。世界の国々は、日本に期待をしています。
豊かで平和な国になった日本だからこそ、世界の平和のために何かできることがあるはずです。
そして、私たちひとりひとりにも何かできることがあるのではないのでしょうか。

◆みろくの世のために

大本では戦争がなく、平和でみんなが幸せに暮らせる世の中を「みろくの世」と呼んでいます。「みろくの世」は、神さまを中心とした世の中になるということです。
みんなが楽しく喜んで暮らせる世の中、地上に天国をつくるという
神さまの思われる平和な世界を実現することなのです。

世界には戦争や飢餓、病気があります。台風や大地震、大洪水などの災害もあります
争いや病気、災害はなぜ起こるのでしょうか？
みなさんは、なぜだと思えますか？

原因は「人の心」です。

つまり、戦争や災害が起こるのも私たち一人一人の心の反映ということです。
心が乱れると、世の中も乱れるのです。
悪い思いが積み重なっていくと、悪いことが次々に起きてしまうのです。

その“悪い心”のことを・・・「われよし」といいます。

「われよし」は、自分勝手な心です。自分が良ければ他の人がどうなってもいい。
自分の国さえ良ければ、他の国はどうなってもいい。
これが「われよしの心」です。

この「われよし」が増えていくと、争いやケンカになります。
争いは、「悲しみ」を生み、「悲しみ」は「恨み」や「怒り」となり
「やられたらやり返す」という争いの連鎖ができあがってしまうのです。

「恨み」や「怒り」が増えれば増えるほど、争いや戦争ははげしくなってしまうのです。

この「恨み」と「怒り」の争いの連鎖を断ち切るには、どうしたらいいのでしょうか？

「大きな愛」と「強い勇気」です。
この「大きな愛」と「強い勇気」を愛善の心と言います。

「われよしの心」は誰もが持っています。
この「われよしの心」を、「思いやりの心」に変えていく。
わたしたち、一人一人が「われよしの心」をあらためて
家族や友達を思いやることが大切なのです。

そうして、私たちのまわりが平和な世界へとつながっていくのです。
まずは、わたしたちの周りから平和にしていかなければなりません。

どんな小さなことでもかまいません。
善いことを一つずつを積み重ねていくのです。

◆身近にできる平和活動

みなさんは、「マザーテレサ」という方を知っていますか？
マザーテレサはインドに渡り、貧しい人や病人に救いの手を差し伸べる活動を行いました。
その活動は世界に認められノーベル平和賞を受賞。
いただいた賞金はすべて貧しい人々に寄付をされました。

ある人が「世界平和のためにできることは何ですか？」
と尋ねたとき、マザーテレサはこう答えました。
『家に帰って家族を大切にしてください。』

『平和は笑顔からはじまります。』

1日5回、あなたが本当は笑顔を見せたくない人に微笑みかけなさい。

それを平和のためにするのです。』

これも、マザーテレサの言葉です。

つまり、平和は身近なところにあるということです。

わたしたちが身近にできることはどんなことがあるのでしょうか？

例えば・・・

- ・席をゆずる ・ゴミを拾う ・けんかをしない
- ・困っている友達、家族を助ける ・人が嫌がることを進んで行う
- ・何かをしてもらったら「ありがとう」という
- ・おじいちゃんやおばあちゃんの肩をもんであげる
- ・悪いことをしたら素直に謝る ・お母さんやお父さんのお手伝いをする
- ・食事を残さない ・水を大切に使う

できることは、たくさんあります。

この“身近にできるこころの平和活動”を

「ここかつ」と呼んで今日から取り組んでいきませんか。

キーワードは「人が喜び、みんなのためになること」です。

「そんなことで平和がくるの？」と、思う人もいるでしょう。

しかし、この小さいこと1歩を踏み出すことで、

あなたの周りが幸せになり、自分自身も幸せな気持ちになることができるのです。

みなさんには前もってこの黄色い短冊をお渡しさせていただきました。

あとでみなさん一人一人に目標を書いていたideきたいと思います。

『戦争に入れる力を平和なる道につくせばこの世天国』

『国々の人の心がそろひたらこの世はたちまち地上天国』

これは二代教主 出口すみこさまのお歌です。

二代様は、平和についてこのようなお示しを残されています。

『今の世の中は、みんな自分さえ良ければ良いという考えで、人の事など、かまっておられないというような有り様ですが、これからは、そんなことでは助かりません。』

人もよし、我もよし、みんなそろってよい世の中を作るように努めなければなりません。
大勢の力を一つにまとめて、一本縄にして心を合わせ
世界の平和をつくるようにせねばなりません。

それには天地の大神さまの御心をいただいて今日のこともそうだが、まず明日のことを
どうするかということを実際に考え、素直な正直な気持ちになって一生懸命努力しなければなりません。』とお示しされています。

「思いやりの心」には、「感謝すること」と「省みること」のこの2つが大切です。

神さまのお恵みや、人の大切さに気づくと感謝の気持ちが湧きます。
そして、何かをさせていただこうという気持ちが芽生え
世のため人のためにという思いやりの行動につながっていきます。

「省みること」は、自分自身のことを振り返るということです。
「省みること」ができる人は、
自分の悪いところを素直に認め、行いを改めることができます。
相手の気持ちも理解できるようになります。

この「感謝すること」と「省みること」を忘れないようにしてください。

「夏期学級の生活」を思い出してください。

①お礼拝 ②あいさつ ③はきものの始末 ④三首のお歌

夏期学級でみなさんは、この4つの大切なことを行ってくれました。
実は、この4つの大切ことは世界平和ともつながっているのです。
家に帰ってからもこの4つの大切なことを
どれか1つでもいいので、必ず続けてください。

私たちは神さまの子です。
心に灯りをともした時、私たちのまわりが明るく照らされます。
ひとつひとつの灯りは小さいかもしれませんが。
しかし、その灯りは必ず周りを照らします。
ひとつひとつの灯りが合わさった時、大きな力を生みだすのです。
奇跡だって起こるかもしれません。

まずは家庭から、そして、学校や地域へ
平和を祈ることで、心が平和になり、日本、世界へと広がっていくのです。

身近にできるこころの平和活動「ここかつ」を今日から実践していきましょう。
今から何か自分にできること、どんなささやかなことでもいいので
何か1つ目標を考えてください。

書いていただいた目標は集めさせていただき
あとで、神さまにお供えをさせていただきたいと思います

(一般向け) 大本の概要

大本（おほもと）

綾部本部 京都府綾部市梅松苑 Tel 0773-42-0187

亀岡本部 京都府亀岡市天恩郷 Tel 0771-22-5561

東京本部 東京都台東区池之端 2-1-44 Tel 03-3821-3701

公式ホームページ：<http://www.oomoto.or.jp>

■ 御祭神

天地万有を生成化育したもう霊力体の大元霊にまします唯一真神をはじめ、大地を修理固成したまえる祖神（そしん）巖霊（げんれい）国常立尊（くにとこたちのみこと）、瑞霊（ずいれい）豊雲野尊（とよくもぬのみこと）その他もろもろの天使を、大本皇大御神（おほもとすめおほみかみ）と仰いで齋きまつる。

■ 教典

『大本神論』（全7巻）、『霊界物語』（81巻83冊）を根本教典とし、その他『道の栞』『道の光』。そのほか歴代教主・教主補による教説書多数

■ 創始者（教祖）

（開祖） 出口なお（1837-1918）

（聖師） 出口王仁三郎（1871-1948）

■ 後継者

二代教主 出口すみこ（1883-1952）

三代教主 出口直日（1902-1990） 三代教主補 出口日出麿（1897-1991）

四代教主 出口聖子（1935-2001）

五代教主 出口 紅（1956- ）

■ 教団史

明治25年（1892）、教祖・出口なお開祖に国祖・国常立尊が「良（うしとら）の金神（こんじん）」の名で帰神し「三千世界の立替え立直し」を宣言して開教した。開祖は文字を全く知らなかったが、明治25年から昇天の大正7年にいたる26年間、心霊科学という自動書記的に、和紙20枚綴りで約1万巻（20万枚）にのぼる預言・警告の筆先を記した。

もう一人の教祖・出口王仁三郎聖師は明治31年、神霊の導きにより郷里の霊山高熊山（京都府亀岡市）で1週間の霊的修業をし、現界・幽界・神界の三界、過去・現在・未来の三世の真相をきわめて宗教者としての使命を自覚する。同32年、開祖の招きにより大本入りし、開祖の五女すみこ（二代教主）と結婚、大本の教義と組織を整える。大正6年から開祖の筆先を『大本神諭』として発表、同10年から高熊山で見聞した内容を口述し『霊界物語』として刊行。大正8年、旧亀山城跡（京都府亀岡市）を入手、神教宣布の中心地とし、発祥の地・綾部（祭祀の中心地）とともに二大聖地とする。

王仁三郎は世界平和実現のために「人類愛善」「万教同根」の思想・理念を提唱し「人類愛善会」を創立。しかしその神観や平和主義、国際主義は当時の国家当局を刺激し、大正10年と昭和10年の2回弾圧をうける。特に昭和10年から10年に及ぶ第2次弾圧は日本近代史上最大の宗教弾圧といわれている。この弾圧事件は昭和20年の大審院判決で無罪が確定して解決したが、王仁三郎は国への賠償請求を一切放棄した。

大本は昭和21年、再発足。同23年の王仁三郎昇天後、二代教主は世界平和を願って世界連邦運動をすすめる。同27年、直日が三代教主を継承し、夫の日出麿三代教主補とともに、「脚下照顧」「言心行の一致」を旨とした大本の教風確立につとめるとともに、「宗教即芸術即生活」という開教以来の理想を唱導、自ら実践し、広く信徒にも奨励した。この三代教主時代に歴代教主・教主補による書画・陶芸作

品等が欧米各地の美術館で展覧されたほか、諸宗教との合同礼拝が実現した。平成2年、出口聖子が四代教主を継承、開教以来の悲願の神殿「長生殿」を綾部に完成。また脳死臓器移植など生命倫理問題についても深い関心を寄せ、生命軽視の風潮に対して警告を発した。平成13年、出口紅が五代教主を継承。同14年大本は開教110年を迎え、開教以来の教風の確立をはかるとともに、歴代教主による諸活動（生命倫理問題、平和問題、環境・農業問題、芸術活動、エスペラント活動等）の展開を進めている。

■ 教 義

次の言葉は開祖帰神の際の筆先であり、「初発の神諭」（明治二十五年旧正月）といい、大本開教の目的等が端的に表現されている。

「三ぜん世界一度に開く梅の花、良の金神の世に成りたぞよ。梅で開いて松で治める、神国の世になりたぞよ。この世は神が構はな行けぬ世であるぞよ。今は獸類（けもの）の世、強いもの勝ちの、悪魔ばかりの世であるぞよ。これでは、世は立ちては行かんから、神が表に現はれて、三千世界の天之岩戸開きを致すぞよ。用意をなされよ。この世は全然（さっぱり）、新（さら）つの世に致して了うぞよ。三千世界の洗濯、大掃除を致して、天下泰平に世を治めて、万古末代つづく神国の世に致すぞよ。神の申した事は、一分一厘違わんぞよ。毛筋の横巾ほども間違ひは無いぞよ。これが違うたら、神は此の世に居らんぞよ」

開祖の神諭（筆先）に一貫して述べられていることは——大地を修理固成した国祖・国常立尊が神界三千年の永い歳月を退隠して以降、地上の人心は“われよし”（利己主義）、“強いもの勝ち”（弱肉強食）に墮し、このままの状態が続けば地上は危機的状況を迎えて「人民は三分になる」と警告。その窮状を救うため、国祖神が再びこの世に出現して、“三千世界”（※注一大本では「神界・幽界・現界」の三大境界をいい、過去・現在・未来をも指す）を立替え立直し、“みろくの世”（※注一大本では、主神が理想とする至仁至愛の世界、地上天国をいう）を実現することが宣言されている。

大本教義の基本として、以下の「教旨」「学則」がある。

〔教旨〕 大本は、左の聖言をもって教旨とする。

神は万物普遍の霊にして人は天地経綸の主体なり、神人合一して茲（ここ）に無限の権力を発揮す。

〔学則〕 大本は、独一真神の無限絶対にましまし、神徳の廣大無辺なることを覚るため、左の三カ条を学則とする。

- 一、天地の真象を観察して、真神の体を思考すべし。
- 一、万有の運化の毫差なきを視て、真神の力を思考すべし。
- 一、活物の心性を覚悟して、真神の靈魂を思考すべし。

また大本では、人類が四大綱領（祭・教・慣・造）の本義にかえり、四大主義（清潔・楽天・進展・統一）にもとづく生活実践を主張するとともに、みろくの世実現のため、万有一体、万教同根の真理にもとづいて大和協力し、人類愛善の実践につとめることを使命として活動している。

■ 祭式と祈り

大本発祥の地・綾部（梅松苑）は、京都市の北西約 80 キロメートルにある。田園都市綾部の清流・和知川のほとり、緑濃い本宮山一帯を境内地とし、祭祀を中心として「天国」を地上に移写する根本霊場とされている。

天地万有を創造したもうたまことの親神であり、霊・力・体の大元霊にまします独一真神をはじめ、諸々の正しい神霊を総称して「大本皇大御神（おほもとすめおほみかみ）」と称え、梅松苑では「節分大祭」「みろく大祭」「大本開祖大祭」「神集祭」などが執行される。また亀岡の聖地（天恩郷）では、出口王仁三郎聖師の生誕を慶祝して「瑞生大祭」が執行される。

中でも節分大祭は、太初に大地を創造したもうた国祖神が、邪神たちによって世の良（東北）に押し込められ「良の金神」「鬼門の金神」として畏れられていたが、世の終末に際し、明治 25 年の節分に再現し、三千世界の立替え立直しと人類の救済を宣言した記念の日として盛大に祭典を執行している。また同大祭ではあわせて大祓い神事として、天地、社会、人事万般一切の罪やけがれを祓い清める厳粛な潔斎行事も行っている。

大本の祭りは、神のみ心と人の心とを“まつりあわせる”ことを本旨とし、祭典や敬虔な祈りを通して神人和楽の世界が地上に実現するとしており、同時に人はこうした神との“まつりあわせ”によって真の幸福が得られるとしている。

■ 儀式・行事

節分大祭（節分当日）、みろく大祭（5月5日）、瑞生大祭（8月7日）、大本開祖大祭（11月6日）、神集祭（旧7月6日～12日）、月次祭（毎月第1日曜日、両聖地）、祖霊大祭（春・秋）、各種祈願・慰霊祭、等

(メモ)

大本少年夏期学級 研修資料

夏期学級講話データ集

発行/編集：大本青年部

平成 28 年（2016）4 月発行

